事業報告書

令和元年（2019）年度

社会福祉法人　アドベンチスト福祉会

２０１９年度 アドベンチスト福祉会 事業報告

理事長　　村本　英邦

先の見えない新型コロナウィルス感染症問題。私たちはいま「普通」、「常識」、「日常」等といった“あたりまえ”とされてきたあらゆる概念や価値観、或いは現実が音を立てて崩れていくのを目撃している。「これまではこうだった・・・、だからこれからもそうだろう・・・」等という考え方がいかに儚いものであるかを知る必要がある。いま日本の社会はすべての物事がそのような現実の中にさらされている。その現実の中で 2019 年度を振り返るとき、コロナウィルス問題を含めた様々な出来事がアドベンチスト福祉会に対してその存在の意味を問うている。私たちはいま、この問いかけに対して誠実に応答する義務を負っている。

その意味で、私たちは「問われる存在」としての在り方を法人内の各事業において確認する必要がある。例えば、保育、療育、介護、支援等の「現場」において、「いのち」への意味づけはなされているか、或いは、ご利用者（児）への関わりの中で真に謙虚な姿勢で寄り添っているか、そもそも「寄り添う」とはどういうことなのか等、福祉の基本となる思想や行動について再度振り返る作業が必要である。2019 年度の事業報告が各施設の「現場」において行動確認の良い材料となることを切望する。

さて、2019 年度は法人内の事業が大きく変化した。新規事業としては、前年度 3 月の「四季の森小学校放課後キッズクラブ」に続き、2019 年 5 月に「放課後等デイサービスベーテルの夢」をスタートさせることができた。子どもたちに対する支援の展開は、将来の法人運営に向けて夢と希望を掲げるものである。これらの事業は、法人が取り組むすべての事業の根底を流れるキリスト教福祉の価値を共有するものであり、当法人が福祉の根拠とする「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである（マタイによる福音書 25 章 40 節）」という聖書の思想を受け継ぐものでもある。
これとは別に終了したサービスもある。サービス開始より約 20 年の間、在宅高齢者の「居場所づくり」の役割を果たしてきた「通所介護事業」を本年 4 月をもって終了した。度重なる制度改正の影響があったことは明らかだが、近い将来、苦汁をなめ、感涙に咽ぶ思いで出したこの決断を、今後の法人経営にとって必要なことであったと多くの関係者が認めるであろうと確信している。経営者会においては、この決断に至るまでの経緯を理事会と評議員会に報告し承認を得ている。

2019 年度の振り返りとして提出する本年度の事業報告書は、当法人の未来に向けた取り組みの材料として意味がある。然るべき場において客観的でかつ建設的な視点で評価されることを希望する。

事業報告書

令和元年（2019）年度

社会福祉法人　アドベンチスト福祉会

シ　ャ　ロ　ー　ム　横　浜

目　次

令和元年度アドベンチスト福祉会

シャローム横浜　事業報告

施設長　……………………………………………………………　１

相談・企画課　……………………………………………………　２

ケアサービス　……………………………………………………
　◇特別介護棟（３階）　……………………………………　５
　◇一般虚弱棟（４階）　……………………………………　７

医務室　……………………………………………………………　９

　施設サービスデータ　……………………………………………　１０

栄養課（食事サービス）　………………………………………　１４

在宅サービス
　◇通所介護（一般）　……………………………………　１７
　◇認知症対応型通所介護（ひまわり）　…………………　１９

事務局　……………………………………………………………　２１

受託事業

　横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業　……………　２５

令和元年度事業報告において「横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業」を「横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ」の部門として記載しておりましたが、「横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業」は横浜市健康福祉局より法人が受託している事業であり「横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ」の部門ではないため、令和元年度事業報告の記載箇所について修正及び削除を行いました。誤った記載のあったことをお詫びいたします。

令和3年5月11日　社会福祉法人アドベンチスト福祉会

２０１９年度　シャローム横浜事業報告

施設長　髙原 信夫

シャローム横浜は、２０１８年度より「寄り添うケアの実践」をサービスの基本姿勢として、昨年に引き続き「未来に向けた一致（新たなチャレンジに向けた合意）」をサービスの基本方針として取り組んできた。「命に対する畏敬の念」を具現化するために、研修やチャプレンが主催する様々な企画（朝礼・ミッションデイなど）等を行ってきたが、職員教育として重要な研修への介護職員の参加が少ないことが課題となっていた。そのため、職員教育委員会を中心に特に重要な研修内容を１５分程度にまとめて、業務内に繰り返し短時間で研修を行い、介護職員全員が参加できるよう取り組みを行った。しかし、そのような取り組みをしても、２０１９年度の研修参加延べ人数は、２０１８年度と比較して施設外研修は１４０名減少、施設内研修は３４名増加したが、全体では１０６名の減少となり、教育システムの構築は今後の大きな課題となった。

また、今年度は、特養における感染症の発症や職員の不適切な接遇の問題、転倒に伴う事故と、重大な課題がいくつも生じた１年であった。このことは、法人理念にあるいのちに向き合う姿勢が根本的に問われる出来事であり、非常に危機的な状況と感じている。今後は今回の出来事を糧にして基本理念に立ち返り、生命体としての「命」と物語られる人生としての「いのち」の両方を大切にしながら、「命に対する畏敬の念」を具現化できるよう職員と共に努力し続けたい。

以下は多くある中で特に報告すべき点として挙げておきたい。

- 特養では、今年度より特養床を１１０床、短期床を１０床に変更したことと、特養・ショートを合わせて９７．５％と、過去２番目の高稼働率で目標達成できた。これは、入院者が前年度比６５．９％と延べ２７１名も少なく、ショートは１１５．７％と過去２番目の高稼働率で終えることが出来た事が大きな要因であった。しかし、ご利用者・ご家族のニーズの変化に伴い、看取り対応やご利用者・ご家族等への対応で難しさを感じることが多くなっていることから、今後は様々な事例に対応するため、契約関係書類の見直しやご家族と共にケアを提供する体制づくり等を構築していく。
- 年末にインフルエンザの発症があり、年度末には新型コロナウイルスと、いままで経験したことのない感染対策が求められている。そのため、感染症対策委員会を中心にシャローム横浜全体の感染症対策を実施し、情報共有や職員教育を行った。しかし、感染症に伴うご家族の面会制限を継続しているため、今後はこのような状況で出来ることを考えていきたい。また、看取りについては継続して検討を続けたい。
- 栄養課では業務の効率化や新しい献立の検討、食事サービスは環境を整え、隣の小学校や地域住民と一緒に継続してサービスが提供できる体制を検討していく。
- これまで生きがい活動の場として地域での役割を果たしてきた一般デイサービスが社会情勢の変化や雇用問題、収支バランスの問題など様々な課題により、４月をもって廃止を決断した。長年にわたりご利用者の必要に応えてきたこの事業廃止について改めて経営と運営の課題を修復できなかったことを反省する。
- 認知症デイサービスひまわりは事業を継続するが、一般デイの廃止に伴い、サービス提供を継続できる体制づくりを検討し、寄り添うケアの実現に向けて取り組む予定。
- ＥＰＡ候補生７名のうち、１名が諸事情で帰国することになったが、同時期にＥＰＡの有資格者が入職。７名とも現場で貴重な戦力として活躍しており、現場に良い影響を与えている。そのうち２名が介護福祉士国家資格に合格でき、感謝している。

令和元年度事業報告　部 門 名	報告者：氏　名
相談・企画課	杉山　肇

Ⅰ **事業概況・実績報告**（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）

1　２０１９年度より定員の変更を行い、特養床１１０名、短期床１０名に変更した。上半期には高稼働率で推移したが、下半期では入院数や感染症発生と稼働率を落とす要因となったが、特養１１０床に変更したことにより、最小限度の低下に抑えることが出来た。

2　特養入所数３１名（前年比８名増)、退所者数２４名（前年比３名減）で、延べ入院数５２４名（前年比２７１名減）と大幅に少なく安定した運営となった。

3　地域における取組みは、定期的に老人会で講話を行った。

4　生活相談員の情報共有に関する研修や、介護老人保健施設生活相談員との意見交換会への参加、ショートステイ施設紹介などに参加した。

Ⅱ **業務目標の達成に関する報告**（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）

1　施設ケアマネジャーと一緒にアセスメントを行い円滑に入所出来る様努めた。また、医療的な課題がある面接は、看護師と一緒にアセスメントをすることでリスクマネジメントを行った。

2　生活相談員に関する研修、交流会に参加することで、地域ニーズ把握や関係各所との連携や相談援助のスキルアップに努めた。

Ⅲ **事業数値目標の達成に関する報告**（達成率･達成数値）

1　特養９５．８４％、短期１１５．７１％、合計稼働率が９７．５０％、目標達成する事が出来た。

2　特養待機者リストを３日以内に作成し、常時待機者３名を確保できた。

3　外部研修に、地域に関する、生活相談員、ボランティア、感染症、介護支援専門員等の研修に参加し、個々のスキルアップを図った。年５回参加の目標は達成した。

Ⅳ **業務の改善・見直し**（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）

1　定員数の変更により、４月は９名入所となり過去最高の入所者数であった。随時面接を行い速やかに入所となったが、複数名でアセスメントをすることは少なかった。

2　地域行事に適時参加した。特に横浜市若葉台特別支援学校の行事には、出来る限り出席し学校との繋がりを深める様努めた。

3　介護ソフトや音声入力システム、服薬管理システム等、業務効率化を目的に業者と意見交換を行った。

Ⅴ **業務の強化・向上**（強化・向上したこと）

1　面接について、複数名で面接にいくことは出来たが、複数名でアセスメントをすることは少なかった。

2　ご利用者とご家族に寄添う支援に努めたが、転倒を繰り返されたご利用者とご家族への支援については、報告・連絡・相談が行き届かず、不快な気持ちや不信感を与えてしまい、充分な相談援助が出来なかった。

Ⅵ **業務の新たな試み**（昨年度より開始した事業・業務・対応など）

1　チャレンジ２０２０シャローム横浜が魅力的な職場であるとアピールすると同時に次世代の育成を行うとしたが実施できなかった。
2　近隣医療機関（急性期・療養型・診療所・精神科）とのネットワークを構について、積極的に関係性を構築する取組が出来なかった。
3　事務作業の効率化を図るために、各業者からの情報収集に努めたが、個々のシステムと連携する（ハブ）ＩＣＴは見当たらなかった。
4　シャローム横浜の目指すべき将来像として、理念を念頭に“いのち”を第一に考え、認知症や生活困窮者といった方々に特養･ショートステイと連携し積極的に支援を進める。

Ⅶ **残された課題・評価・反省・その他の特記事項**

1　特養においては重篤事故、虐待ケース、感染症と重大な課題が生じた１年であった。来年度においては、基本に立ち返り理念を強く意識して取組を進めていく。
2　ご利用者とご家族への相談援助について、充分に支援出来ていなかったケースもあることから、今後担当制（フロア別）や情報伝達を含めて検討していく。
3　一部の方においては権利主張を強く言われる方がおられる。今後、特養・ショートステイの契約書・重要事項説明書の見直しと、医療・ケア・相談（カスタマーを含む）に関する説明書を作成し、リスクマネジメントを積極的に進めていく。
4　入院加療されていた方の支援について、医療的に出来ることがないことから退院となるケースが生じ、ご利用者とご家族は当然であるが支援する職員の不安感が拭えないケースも生じた。今後、そういったケースが多くなることが考えられるため、施設としての方針を整理、検討する必要がある。

【表1】ショートステイ新規利用相談　（件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
20	15	14	20	18	20	18	15	16	10	12	18	196

【表2】特養入所相談　（件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
12	10	16	12	14	12	7	16	6	13	20	10	148

【表3】特養待機者面接（件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3	4	3	3	2	0	2	3	0	3	2	3	28

【表4】入退所の状況

（1）年度中に入所又は退所した者の数（人）

H31..4.1在所者数	入所者数	退所者数	R02.3.31在所者数
101	31	24	106

※2019年度より入所者定員を104名から110名に変更

（2）年度中に入所した者の入所時における要介護度別内訳（人）

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
0	0	7	13	11	31

（3）年度中に入所した者の生活状況及び入所者数（人）

生活状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在宅	4	0	0	2	0	0	1	1	1	1	1	0	11
シャロームショートステイ	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
認知症高齢者グループホーム	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
介護老人保健施設	3	1	0	0	0	0	2	1	2	0	1	1	11
病院	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3
有料老人ホーム	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
他法人ショートステイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護療養型医療施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
入所者数	9	2	2	2	0	0	4	2	4	2	2	2	31

（4）年度中に退所した者の理由及び退所者数（人）

退所理由	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
病院で死亡者数	0	0	0	0	1	2	0	0	2	1	1	1	8
施設看取り者数	0	2	1	0	0	2	2	2	2	0	0	2	13
長期入院退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
転院退所	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	3
自宅へ退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所者数	0	2	1	0	1	4	2	2	6	1	2	3	24

【表5】在籍者の状況について（令和2年3月31日現在）

（1）年齢構成（歳）

平均年齢	87.36	男性	87.25	女性	87.38

年齢	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	合計
男性	1	0	0	2	1	6	6	0	16
女性	2	3	3	7	18	21	23	13	90
計	3	3	3	9	19	27	29	13	106

（2）在籍者の要介護度別内訳（人）

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
男性	1	2	4	5	4	16
女性	3	4	18	29	36	90

（3）入院者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
入院者数	1	0	2	1	7	6	2	9	3	5	3	5	44	3.7
延べ入院者数	2	1	2	3	7	9	4	9	10	5	6	5	63	5.3
延べ入院日数	14	1	28	20	58	93	12	123	71	36	53	15	524	43.7

【表6】緊急ショートステイ受入件数（件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	0	1	0	1	1	1	0	0	1	1	0	6

【表7】ボランティア活動報告、シャロームギャラリー展示記録

ボランティア活動報告

活動内容		累計
1	シーツ交換	106
2	音楽・踊り慰問	48
3	クラブ活動講師	32
4	営繕ボランテイア	43
5	乾髪・介護手伝い	125
6	縫い物ボランティア	50
7	行事手伝い	8
8	お花ボランティア	34
9	車両洗いボランテイア	9
合計		455

シャロームギャラリー展示記録

月	内容
4月	若葉自然写真同好会
5月	シャローム横浜ガーデン
6月	「彩々会」女流4人展
7月	四季の移ろいと可憐な花々及び北アルプス　寺村正夫
8月	21デジカメ同好会
9月	若葉自然写真同好会
10月	田嶋正枝　絵画展
11月	シャローム横浜　桜山・デイサービス作品展
12月	吉田玲子　絵画展
1月	つばき書道教室
2月	21デジカメ同好会
3月	シャローム横浜の桜

令和元年度事業報告　部 門 名	報告者：氏　名
ケアサービス課　特別介護棟	山田　康裕・山中　重男

Ⅰ **事業概況・実績報告**（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）

1　ご利用者に関する小さな気づきに対して書面等を活用することで、日常の業務内で職員間にて情報共有を行った。それにより、ご利用者の個性や日々の変化を汲み取ることができ、寄り添い共感する介護に努めた。

2　リフトや既存の福祉用具を最大限活用。また最新の福祉用具を取り入れて介護負担の軽減に努めた。

3　職員自らが考え、相談する場を設けなくても問題解決・実施するように努めた。

4　業務内での研修を行い、感染症・救急対応を学ぶことで、知識・技術の向上に努めた。

Ⅱ **業務目標の達成に関する報告**（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）

1　規律や普段の業務内での決まり事を再度確認したが、全職員が徹底することはできなかった。来年度に向けて、フロアー職員自ら、目標設定・評価を実施し改善できるように努めていく。

2　ご利用者に適正なパットの使用を実践する事が出来た。次年度も継続していく。オムツの当て方については改善の余地があるため、今後も研修を継続して実施する。

3　２人介助時にトランスボードを使用しているが、１人介助のトランス者が多く、腰痛や手首、膝を痛めている職員がいた。次年度は１人介助用のトランスボードの購入し、より職員の負担軽減を図る。

4　外部研修では、認知症実践者研修、社会福祉合宿研修、嚥下困難の研修に参加。内部の研修は研修時間とフロアーの勤務時間が合わず参加には至らなかった。内部研修に関しては、次年度短い時間で実施していく。また認知症実践者研修、喀痰吸引などの実践に繋げられる研修にも参加を促していく。

Ⅲ **事業数値目標の達成に関する報告**（達成率・達成数値）

1　特養稼働率９７．５０％を達成。

2　嚥下困難者への支援の検討は、月１回のペースでなく適宜開催した。ご利用者の食事姿勢、嚥下評価、食事形態の見直しなど。今後も月１回ではなく、適宜開催していく。

3　業者より適正にオムツを使用できていると評価あり。年間およそ８％のコストダウンを実施できた。

Ⅳ **業務の改善・見直し**（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）

1　感染予防対策について、直接介護に関わる職員に対しては１回の研修を実施。反復練習までは至っていないが、感染マニュアルを直ぐに見て分かり易くすることで、実践に役立つようにした。

2　適正な介助方法、適正なパット使用により、尿漏れが減る事や無駄なパットの使用を防ぐことで、ご利用者の不快さの軽減に繋げられた。

3　回想法への参加は、感染症対応等の理由により、年間１クールでの開催となったため、フィードバックには至らなかった。理由として参加するご利用者が固定しており、認知症状も穏やかなために１クールでは得られる情報も限られている為、ケアに活かすまでには至らなかった。

Ⅴ	**業務の強化・向上**（強化・向上したこと） １　回想法については年１回の為、情報が少なくケアに活かすまでには至らなかった。 ２　音楽療法で得られた情報では個別ケアに結び付けることはできなかったが、参加時利用者からは笑顔が見られたり、発語が無かった方から発語の反応が見受けられるなど音楽療法の効果が見られた。 ３　移乗介助の研修を実施し、職員が実際に福祉用具を使用した移乗を体験することで、移乗されるご利用者側の視点を、身をもって体験すること事が出来た。それにより、ご利用者目線での移乗介助を行うことで安心・安全なケアに繋げられた。 ４　看護師・管理栄養士・機能訓練士等の参加のもとケアプランを提案・検討したが、従来と変わらずご利用者１人・１人に対してのケアプランの充実までには至らなかった。 ５　季節行事や外出企画、作品作りを通して季節感を感じていただけた。 ６　その方が好きだった食べ物をお楽しみ程度に提供することや､好きな音楽を聞いて頂き、看取りケアの充実を図った。また、訪室回数を増やして声掛けや、手を擦るなどの対応など今まで以上に行った。
Ⅵ	**業務の新たな試み**（昨年度より開始した事業・業務・対応など） １　５Ｓを行い、物品の位置や用具、フロアーにある全ての物の位置を定め管理することで物を探す時間を短縮した。また、５Ｓを全職員が理解する事で今現在行っている業務も含め無駄な業務は無いかを最終目標とし、５Ｓに取り組んだが、目標を職員に明確に伝えることができず、業務の効率化までは結びつけることは出来なかった。 ２　ＯＪＴに関する研修に参加できなかったため、情報収集や研修の制定には至らなかった。 ３　他部署を交えてご利用者の食事姿勢、嚥下評価、食事形態の見直しなどを実施。嚥下状態が低下したご利用者には機能訓練士の指導のもと、正しい姿勢での摂取に繋げた。嚥下状態については歯科衛生士の嚥下評価をもとに食事形態の検討、介助方法も指導のもとで提供を行う。また看取り期の方には好きだった物を提供し食事の楽しみを提供した。 ４　特別介護棟として認知症に特化したサービスが提供できるよう、認知症実践者研修１名終了した。今後も職員を増やし、専門的なケアを提供できることを目標とする。
Ⅶ	**残された課題・評価・反省・その他の特記事項** １　現場に必要な研修が役職者対象だったため、参加には至らなかった。 ２　認知症ご利用者へのケアの方法や解決策を含め、根拠を持ったケアに繋げられていないことから、認知症実践者研修などを通して、再度認知症理解について学ぶことで根拠を持ったケアに繋げていく。 ３　ご家族の想いや要望等がフロアー職員に届きにくいため、今後は、ご家族の要望や、外部からのご意見を取り入れられるような方法を検討していく。 ４　職員による不適切な接遇や重篤な転倒事故等、様々な重大な出来事があり。ご利用者へのケアをしっかりと見直し、規律や業務内の決まり事を徹底することで、再度実施出来るように努めていく。

令和元年度事業報告　部 門 名	報告者：氏　名
ケアサービス課　一般虚弱棟	山田　康裕・伊藤　彰彦

Ⅰ **事業概況・実績報告**（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）

1　ご利用者に関する小さな気づきに対して書面等を活用することで、日常の業務内で職員間にて情報共有を行った。それにより、ご利用者の個性や日々の変化を汲み取ることができ、寄り添い共感する介護に努めた。

2　リフトや既存の福祉用具を最大限活用。また最新の福祉用具を取り入れて介護負担の軽減に努めた。

3　職員自らが考え、相談する場を設けなくても問題解決・実施するように努めた。

4　業務内での研修を行い、感染症・救急対応を学ぶことで知識・技術の向上に努めた。

Ⅱ **業務目標の達成に関する報告**（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）

1　変更事項は意見ノートを活用して周知させることで、全ての職員が業務で決められた実施事項を守り、業務を行うことができた。

2　排泄係を中心に、ご利用者のADLと業務を照らし合わせた排泄時間・排泄物品を検討することにより、ご利用者が快適に生活できる排泄介護を実施した。

3　天井リフトの活用やロールボード・スライディングボードを使用して移乗介助の負担軽減を図った。介護ロボットの導入はすることが出来なかったが、来年度も介護負担の軽減を進めていく。

4　今年度の研修参加率は２６％と低値であった。来年度に向けて参加率を上げるため、短い時間の研修方法や業務内での研修方法を見直し、更なる職員のスキルアップを図る。

Ⅲ **事業数値目標の達成に関する報告**（達成率・達成数値）

1　特養稼働率９７．５０％を達成。

2　音楽療法にて嚥下体操の実施。また、食前にクルリーナブラシを活用して嚥下困難者への支援を行った。しかし、嚥下困難者以外の利用者カンファレンスも行ったことにより、嚥下困難者への月１回のカンファレンスは達成できなかった。そのため、嚥下困難者に対しては必要に応じてカンファレンスを実施した。

3　業者より適正にオムツを使用できていると評価あり。年間およそ８％コストダウンを実施できた。

Ⅳ **業務の改善・見直し**（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）

1　４０４～４０６号室の天井リフト・ロールボード等、福祉用具を使って移乗を実施。介助の時間は多少かかるが、ご利用者・職員の負担軽減に繋げることができた。

2　対象者は週１回歯科衛生士が口腔内を確認。この情報を担当職員に伝達することにより、口腔ケアを強化できた。また、食事を自立で食べている方に対しても、自力で歯磨きできない方は職員が介助するように変更。毎食の口腔ケアの実践・強化を図ることができた。

3　排泄係を中心に、ご利用者のＡＤＬと業務を照らし合わせて排泄時間・排泄物品を使用することにより、ご利用者にあった排泄支援を行うことができた。

4　感染症対策等で回想法は少ない実施となったが、回想法での記録を職員が確認できるように、ワーカー室に掲示した。それにより、認知症の方へのアプローチ方法を周知・統一して認知症ケアの充実を図ることができた。

Ⅴ	**業務の強化・向上**（強化・向上したこと） １　介助方法や業務内容の変更等に意見ノート・ＩＰＡＤ・掲示物を用いて情報共有を行い、全ての職員が業務で決められた実施事項を守り、業務を行うことができた。 ２　嘔吐時の対応、緊急時・ＡＥＤの研修を実施した。感染対応は全員参加することができたが、緊急時・ＡＥＤの研修は実施回数が少なく、全員の参加は出来なかった。 ３　音楽療法実施当日にミーティングにて、音楽療法士・参加職員から情報提供の場を設け、得た情報を日々のケアに活かし認知症ケアを向上することができた。 ４　４０４～４０６号室天井走行リフト、ロールボード・スライディングボードを使用し持ち上げない介護を実践。全介助移乗の内４０％の方に使用することができた。今後も福祉用具の活用を図り、持ち上げない介護の実践を進めていく。 ５　ケアプラン会議前に担当よりプラン内容の提案をもらい、担当が参加できなかった際はケアマネより変更点を提示することにより、ケアプラン会議の充実を図ることができた。 ６　その都度、医務・相談員と話し合い、対応を検討・実施してきた。また振り返りのアンケートも実施しご利用者１人１人に合った看取りケアをすることができた。また振り返りのアンケートをすることにより、今後の看取りケアの充実に活かすことができた。
Ⅵ	**業務の新たな試み**（新たなニーズへの対応・開発） １　チャレンジ２０２０ ①　全てのご利用者に対し、外出可能な方はドライブ等での外出を実施。外出が難しいご利用者には施設内にてお好きな食べ物を食べて頂く等、全てのご利用者にサービスを提供することができた。今後の課題としては、外出時のドライバーの確保や外出の際になるべく利用者全員が参加できるようスケジュールを組むことが必要と思われる。 ②　毎月の勉強会は実施できなかったが、リフトを使ったトランス研修・感染症対応研修については職員全員が参加することができた。 ２　ご利用者のＡＤＬ変化に合わせた食事の提供を実施。また栄養課と協力して特別食を提供するなど、ご利用者が安全で楽しめる食事ができるよう栄養課・医務室と協力した。また音楽療法にて嚥下体操の実施し、歯科衛生士と連携して口腔ケアの充実を図った。 ３　ご利用者にとって、我が家のようにくつろげ、安心して生活できる空間づくりを目指す。
Ⅶ	**残された課題・評価・反省・その他の特記事項** １　研修、勉強会への出席が難しく、出席率が低いため、業務内で行えるプラグロムを検討・実施できるようにしていく。 ２　嘔吐の感染対応について勉強会後も手順が分からない職員がいるため、今後も繰り返し研修を実施していく。

令和元年度事業報告　部 門 名	報告者：氏　名
医務室	品末　直美

Ⅰ　**事業概況・実績報告**（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）

1　施設看取り１５名（3F9名、4F6名)、病院死亡６名、療養型病床へ転院２名。
４月、１２月、３月に内科往診人数が増加している。４月、３月は発熱症状のご利用者が多発、１２月はインフルエンザ様症状のご利用者が多発したことが関係している。

2　入院時病名は、肺炎１２名、胆のう・胆管炎５名、骨折４名。救急搬送数は１１名だった。(昨年度１９名)。(表２)

3　機能訓練士、看護師による他部署への研修を積極的に実施した。(表８)

4　１２月施設内で職員とご利用者（3F1名、4F2名）のインフルエンザ発症があり、ご利用者１名が死亡した。(基礎疾患に重篤な心不全があり、以前から急変のリスクが高いことを医師より説明されておりご家族は理解されていた。)

Ⅱ　**業務目標の達成に関する報告**（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）

1　ご家族の理解度に合わせて、終末期の意思決定のサポートをした。必要に応じて病院受診とし、また判断ができるご家族を交えての説明の機会を設けた。

2　嚥下リハビリを開始したが、誤嚥性肺炎の予防につながったかどうかの評価はできなかった。

3　感染症予防の研修を実施したが、特養ケアワーカーの参加者数が少なかった。特養でのインフルエンザの拡大を防止できなかった。

4　薬に関する業務を軽減することができた。(Ⅳ－４参照)

Ⅲ　**事業数値目標の達成に関する報告**（達成率･達成数値）

1　多職種での看取り後の振り返りカンファレンスは3回実施。目標の３回は達成できた。

2　嚥下リハビリの実施は、延べ４８９名。(平均週９回) 目標の週５回は達成できた。(表５)

Ⅳ　**業務の改善・見直し**（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）

1　歯科衛生士による口腔ケアで、嚥下困難のご利用者、口腔ケアが困難なご利用者を対象者に加え、口腔ケアを実施した。(表４)

2　感染症持ち込み防止のため研修を実施し (表８)、横浜市の感染症情報を掲示する等職員への予防意識向上に努力したが、職員のインフルエンザ発症、感染の拡大を防ぐことができなかった。

3　衛生材料等の注文の部分ついて事務局へ依頼する形を検討したが、ご利用者の状態により注文数の変動があること、急に必要となる場合があること等から、医務室での対応を継続することとなった。

4　１０月よりかかりつけ薬局を変更することで、業務を削減した。複数科からの処方薬の合体作業を、薬局が行うことになった。

5　停電時のマニュアルを作成した。災害時の医務室の対応を職員間で確認した。

6　転倒後死亡したケースがあり、転倒時対応、夜間緊急時対応、オンコール対応について見直しし、マニュアルを改訂した。

Ⅴ	**業務の強化・向上**（強化・向上したこと） １　看取りケアに関するカンファレンスを実施し、看取りの経過を多職種で共有する必要があることを再確認した。また看取り同意書の見直しをした。 ２　機能訓練指導員による褥瘡・ＩＡＤ（失禁関連皮膚障害）の研修、姿勢に関する研修を実施した。（表８） ３　誤嚥予防のため、機能訓練指導員による姿勢の見直し、緊張緩和目的のリハビリを実施した。（表５）
Ⅵ	**業務の新たな試み**（昨年度より開始した事業・業務・対応など） １　福祉用具リショーネ（電動ベッドと電動リクライニング車いすの融合したベッド)、天井リフトの入れ替えにより、持ち上げない介護を実践した。 ２　嚥下リハビリ評価対象者の選出、リハビリは実施出来たが、評価法の設定、看護師・音楽療法士・ワーカーとの情報共有が不十分だった。
Ⅶ	**残された課題・評価・反省・その他の特記事項** １　転倒時対応、夜間緊急時対応、オンコール対応について、ケアワーカー、看護師対象の研修を、次年度複数回に分けて実施していく。 ２　終末期医療の選択肢について、ご家族がより理解しやすいように、絵入りの説明書を検討する。 ３　嚥下評価法を設定し、ご利用者の状態を多職種で共有できるシステムを検討する。 ４　夜間の看取り体制について、嘱託医、ケアワーカー、相談員と再検討し、調整していく。

表1.　【医師の診察】

〈往診〉

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合計
内　科	来所回数	4	4	4	5	3	4	4	4	4	4	3	5	48
	診察人数	74	66	40	64	51	63	64	57	71	67	41	69	727
精神科	来所回数	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	3	24
	診察人数	20	17	17	9	18	18	19	18	18	18	18	28	218
歯　科	来所回数	4	4	4	4	3	4	4	4	4	2	3	3	43
	診察人数	26	31	24	29	27	26	31	30	22	21	30	37	368
皮膚科	来所回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	診察人数	18	17	15	12	12	6	10	13	9	4	7	5	128

〈嘱託医へFAX（報告・相談）人数〉

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合計
中希望が丘診療所	12	5	29	19	24	14	15	26	33	18	12	5	212
神奈川病院	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
浅井皮膚科クリニック	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2

表2.　【外来受診・健康診断】

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合計
内　　科	4	8	9	5	9	6	11	8	8	10	7	4	89
眼　　科	1	2	2	2	1	3	1	1	0	3	4	4	24
皮 膚 科	2	4	2	5	7	8	3	3	4	3	4	1	46
整形外科	8	3	8	5	1	3	0	3	4	2	6	2	45
泌尿器科	2	6	6	2	4	4	1	1	2	1	2	2	33
外　　科	1	0	0	0	0	1	2	2	1	1	1	0	9
救急外来	1	1	2	0	5	5	1	3	2	2	2	3	27
脳 外 科	0	1	0	0	0	5	2	1	0	2	1	2	14
婦 人 科	0	0	1	0	1	1	2	1	2	0	0	0	8
形成外科	1	1	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	6
精 神 科	0	1	1	1	1	2	2	2	1	3	1	1	16
歯　　科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳 鼻 科	1	0	0	1	1	1	0	2	1	1	1	1	10
内 視 鏡	1	1	2	0	0	0	0	1	3	0	0	0	8
検　　査	2	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1	0	6
口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
輸　　血	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　　計	24	28	33	24	31	40	34	30	28	28	30	20	341

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合計
救急搬送本入	0	0	0	0	4	1	1	1	0	1	0	3	11
救急搬送ss	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合計
健康診断	0	48	0	48	0	0	0	0	0	0	0	0	96

入院時病名	肺炎（うち誤嚥性肺炎）	胆のう炎 胆管炎 総胆管結石	骨折	尿路感染	胃ろう造設術	脳梗塞	心不全	硬膜下血種 クモ膜下出血	白内障手術	痰の増加	摂食困難	ペインコントロール	PTGBD交換
人数	12(8)	5	4	3	2	2	2	2	2	1	1	1	1
入院時病名	低血糖	インフルエンザ	脱水	炎症高値	検査								
人数	1	1	1	1	1	（1人複数病名あり）							

表3.　【医療処置】月末時点（入院者含まず）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
胃 ろ う	4	3	3	4	4	4	4	3	3	3	4	4
ス ト マ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
在宅酸素	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
膀胱留置カテーテル	3	4	3	4	4	3	2	1	1	1	1	1
常時吸引	1	1	1	2	2	2	4	2	2	1	1	1
褥瘡（Ⅱ度以上）	5	4	7	7	7	5	5	5	5	4	4	3
吸　　入	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
PTGBD留置	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0
合　　計	21	20	22	26	25	23	24	19	19	17	18	17

（SS含まず）

表4.　【歯科衛生士による口腔ケア】

口腔ケア	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合計
来所回数	4	3	4	4	3	3	3	3	4	2	3	4	40
実施人数	81	64	83	86	69	63	69	70	85	42	64	90	866

表5.　【リハビリ】

〈ＰＴによるリハビリ〉

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合計
来所回数	5	4	4	4	4	3	4	4	4	3	4	4	47
指導人数	54	32	26	29	28	19	23	26	26	25	25	25	338

〈機能訓練指導員による嚥下リハビリ〉　対象者の実人数３Ｆ　7名、４Ｆ　4名

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合計
実施数	21	30	50	44	65	88	55	58	21	25	20	12	489

〈機能訓練指導員によるリハビリ〉　対象者の実人数３Ｆ　48名、４Ｆ　44名

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合計
実施数	174	182	192	153	176	215	151	228	95	140	109	93	1908

表6.　【予防接種】

肺炎球菌予防接種

	①ニューモバックス	②プレベナー
3F	6	6
4F	1	1
合計	7	7

注：①市の助成あり　②助成なし自費

ご利用者インフルエンザ予防接種

3F	51
4F	48
合計	99

表7.　【外部研修参加】

	日時	研修名	参加者	場所	主催
1	4月25日	介護技術の基本～ 移動・移乗の技術の実践	山中真	ウイリング横浜	かながわ 福祉サービス振興会
2	6月2日	持ち上げない、 抱えない介護の実践	松岡	大田区 産業プラザPIO	関西看護ケア研究会
3	6月17日	摂食嚥下の見方と 誤嚥予防のための介助法	大城	ウイリング横浜	横浜市立大学 地域貢献センター
4	6月22日	「わかる」「みえる」 「できる」褥瘡対策180分	大嶋 松岡	はまぎん ヴィアマーレ	株式会社ケープ
5	7月4日	介護現場の理学療法士が 実践！自立支援・重度防止 のリハビリ介護技術	山中真	ウイリング横浜	横浜市 社会福祉協議会
6	10月2日	旭区感染症予防講習会	林記子	旭区役所	旭福祉保健センター
7	10月1日	感染症対策 指導者養成研修	中村牧子	横浜市 南公会堂	横浜市健康福祉局 高齢施設課

表8.　【部署外研修の実施】

	日時	講師	研修内容	対象	場所	参加人数
1	4月12日	シーホネンス・松岡	トランスファー研修	特養職員・一般デイ職員	デイホール	23
2	4月25日	シーホネンス・松岡	トランスファー研修	特養職員・一般デイ職員	デイホール	15
3	7月17日	山中	姿勢	特養職員	4Fワーカー室	2
4	7月27日	山中	姿勢	特養職員	4Fワーカー室	1
5	7月21日	品末	夜勤者研修	特養職員	4F西デイコーナー、医務室	1
6	7月22日	松岡	移乗研修（立ち上がり動作）	一般デイ職員	デイホール	10
7	8月14日	松岡	移乗研修（立ち上がり動作）	ひまわり職員	ひまわりデイ	4
8	10月2日	品末	夜勤者研修	特養職員	4F西デイコーナー、医務室	1
9	10月16日	中村・林	感染症	シャローム横浜・桜山職員	会議室	28
10	11月12日	中村	感染症予防	ケアプラザ職員	ケアプラザ	22
11	2月20日	品末	感染症対策	法人職員（スタンダード研修）	会議室	6
12	2月12日	松岡	じょく瘡予防（IAD）	特養職員	チャペル	17
13	3月4日	フクダ電子宮前氏	AED研修	特養職員	会議室	11

表9.　【夜間オンコール】18：30～翌朝7：30

月別のオンコール件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3	5	6	8	13	8	4	4	7	7	7	6	78

症状別の件数・救急搬送数

SPO2低下	呼吸	血圧	けいれん	麻痺	嘔吐	下痢	高熱	意識レベル低下	呼吸停止（看取り）	転倒	頭痛	出血	その他	救急搬送
4	4	7	2	1	4	1	46	6	5	5	0	2	0	4

（1人に複数症状ある場合あり）　　※看取りケア手順の問い合わせ

令和元年度事業報告　部 門 名	報告者：氏　名
栄養課	小寺　秀偉

Ⅰ **事業概況・実績報告**（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）

1　今年度は新しい食材を取り入れ、安全で安心な喜びと楽しみのある食事を提供した。

2　昨年秋から配食の食数管理システムを導入。データ化した事により日々の配食数管理や禁止物の把握が分かり易くなった。また、デイサービス利用者の持ち帰りが増えて、そのうちの８割がデイサービス終了後も利用継続しているなど、食数増加に繋がった。

3　年明けの値上げ案内配布後はサービス終了される方も多々おられたが、大半は理解され継続されている。近隣施設の配食サービス終了に伴い移行される方もおり、今後は食数増加が期待できる。

Ⅱ **業務目標の達成に関する報告**（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）

1　月一度の献立会議にて、新しい食材や季節に合った食材を検討し、献立に取り入れた。

2　食中毒予防のために中心温度を測り、献立表に記入して食品の安全を確保した。

3　食事サービスでは、小学校菜食弁当の食数が家族の都合や転勤等で伸び悩み、達成することが出来なかった。

Ⅲ **事業数値目標の達成に関する報告**（達成率･達成数値）

1　食事サービス　１日平均　１１４．７食　　達成率９５．５％（小学校含む）

2　小学校に関しては平均２０食で目標に達せず。　なお、取組としては全校給食６月に１回、学校説明会に向けて試食会を９月に１回実施したのみとなった。

Ⅳ **業務の改善・見直し**（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）

1　配膳の最終確認を２名体制で行うことで、配膳ミスを減らす事は出来たが、ミス自体を無くす事は出来なかった。

2　調理職員の入れ替わり等により、盛り付けに関する見直しはできなかった。今後は現状を見ながら検討していく。味付けに関しては調理担当を交代により、単一な味付けにならない様工夫を行った。

Ⅴ **業務の強化・向上**（強化・向上したこと）

1　単価の高い生の食材を減らし､質の良い冷凍食品の野菜や魚を取り入れ食材費を抑えた。

2　食事サービスでは､状況に合わせて主食の量や食材を変更する事で､提供を継続出来た。

3　盛り付け等に配慮し、味だけではなく見た目でも美味しさを感じて頂くよう努めてアピールすることが出来た。

Ⅵ **業務の新たな試み**（昨年度より開始した事業・業務・対応など）

1　若葉台地域民生委員の集会に参加してアピールしたが、思った以上の食数増加には至らなかった。なお、民生委員の方には食事サービスの事を知って頂く事が出来た。

2　ＢＣＰに備え、防災訓練時に非常食の炊き出しを１回実施した。

Ⅶ **残された課題・評価・反省・その他の特記事項**

1　朝礼の参加を心がけたが、職員の勤務状況により思うように参加出来なかった。来年度は出来る限り参加し、法人理念の浸透に努める。

2　見た目を考慮した介護用食品を取り入れようと検討を重ねたが、実際には献立に反映することはできなかった。来年度は金額を検討しながら試食を重ね、取り入れていきたい。

3　食事サービスではメニューの見直しや食数増加に対する営業方法を検討する。

4　小学校の全校給食に向けて、学校側との協議を今後の課題とする。

表１【栄養ケア・マネジメント】　単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
高リスク	3	6	7	7	4	5
中リスク	62	64	60	60	59	66
低リスク	38	35	38	39	43	33
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
高リスク	4	8	4	4	4	6
中リスク	67	65	74	67	67	64
低リスク	34	33	27	31	31	34

表２【行事食実施記録】

● イベント食

敬老祝い膳（9月15日）	赤飯、清汁、ぶりの照り焼き、天ぷら（海老、イカ、さつま芋、しし唐） 野菜炊き合わせ（里芋、人参、牛蒡、筍、絹さや）、秋の白和え、 寿饅頭

クリスマスディナー（12月25日）	パン(クロワッサン、ホワイトブレット)、南瓜のポタージュ、海老のオーブン焼き、 ビーフシチュー（牛肉、人参、じゃが芋、いんげん）、サーモンチーズサラダ、 レアストロベリーケーキ、ダブルベリーケーキ、ワイン（ノンアルコール）

正月祝い膳（1月1日）	雑煮（鶏肉、ほうれん草、花形人参 ）、海老の姿煮、伊達巻、 栗きんとん、紅白なます、黒豆、紅白かまぼこ、数の子、鰤の照り焼き、 チキンロール、合鴨ロース焼き 煮物（里芋、 京人参、 筍 、椎茸 、絹さや）

● 喫　茶（月によってはミキサー食の方にも召し上がって頂けるように配慮したデザートを提供）

4月	ストロベリーケーキ、桃のケーキ	10月	ティラミス、サワーチェリーケーキ
5月	ティラミス、白桃ムースケーキ	11月	いちごショートケーキ
6月	ストロベリーケーキ	12月	オペラケーキ
7月		1月	オペラケーキ
8月	サワーチェリーケーキ	2月	チョコケーキ
9月	マロンケーキ	3月	ダブルベリーケーキ

◎飲物・・・コーヒー・紅茶のどちらか好きなものを選択

● 屋 台　年６回実施（デイサービス・特養・ケアハウス提供）

5月	ミックスピザ（玉葱、ベーコン、ピーマン、トマト、チーズ） シーフードピザ（玉葱、ピーマン、シーフードミックス、チーズ）
6月	バーベキュー（牛肉、ピーマン、舞茸、玉葱、人参）、フルーツ杏仁 特養:すき焼き、清汁(舞茸、茗荷)、茶碗蒸(銀杏、かまぼこ、三つ葉)、 青梗菜のお浸し

7 月	釜戸料理(茹でトウモロコシ、枝豆)
8 月	あんみつ
9 月	ミックスピザ（玉葱、シーフードミックス、ベーコン、ピーマン、チーズ）
10 月	醤油ラーメン（チャーシュー、煮卵、シナチク、もやし、長ねぎ、小松菜） かにシュウマイ、杏仁豆腐タピオカ添え （麺禁⇒プルコギ（牛バラ、玉ねぎ、人参、キャベツ、ニラ、エリンギ））
11 月	安納芋の焼き芋
3 月	醤油ラーメン（チャーシュー、煮卵、シナチク、長ねぎ、ほうれん草）、 春巻き、豆乳ゼリー （麺禁⇒青菜炒め（豚小間、小松菜、人参、干し海老））

表 3【食事サービス】

● 食事サービス実績表

	月別実績 食数	一日平均 食数	前年度比率
4 月	2,514	114.3	101.4%
5 月	2,682	116.6	103.3%
6 月	2,447	122.4	101.7%
7 月	2,566	111.6	94.4%
8 月	2,331	106.0	103.8%
9 月	2,576	122.7	89.8%
10 月	2,829	123.0	97.4%
11 月	2,537	120.8	94.2%
12 月	2,339	111.4	94.4%
1 月	2,333	116.7	98.7%
2 月	2,272	113.6	97.5%
3 月	2,155	98.0	92.4%
計	29,581	114.7	95.5%

令和元年度事業報告　部 門 名	報告者：氏　名
デイサービスセンターシャローム横浜	椎橋　葉子

Ⅰ	**事業概況・実績報告**（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）
	1　年度初めは看護師１名の退職による人員不足が有り、9 月には解消されたが、ドライバーや介護職員の人員不足等や収支バランスの悪化により、事業の継続が困難となった。令和２年４月をもって事業閉鎖と決まった為、１月からは閉鎖へ向けて事業所の円滑な移行に努めた。
	2　稼働率：第１四半期 75.0%、第２四半期 80.9%、第３四半期 79.73%、第４四半期 62.7%
	3　登録利用者中、法人内居宅支援事業所　３%、外部居宅支援事業者９７%。
	4　年間行事実施数１２回、クラブ活動８種類。
Ⅱ	**業務目標の達成に関する報告**（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）
	1　在宅サービスセンターとして、認知症対応型通所介護・ショートステイ・給食部門と情報共有及び連携を密に行い、協働することで介護の質を高めてきた。デイサービス帰宅時のお弁当は週２０食以上利用されてご利用者にも喜ばれた。
	2　介護保険の理念に基づき自立へ向けた支援を行った。生活動作能力を維持できるようにレクリエーションを工夫し、要介護状態でも可能な限り生活機能の維持向上を目指した。
	3　認知症ケアへの理解を深める取り組みとして回想法の研修に参加し、シャロームで行うセッションにデイサービスからもご利用者２名が参加。ご利用者の生活向上と介護者の負担軽減やご家族へ助言を行った。
	4　看取りケアに対する通所介護事業所としての役割について検討し、担当ケアマネジャーや訪問看護ステーションとメールや電話、連絡帳などを利用して密に情報共有を図り、支援を行った。
	5　地域社会への発信と施設全体の協働を常に意識して業務に取り組んだ。
Ⅲ	**事業数値目標の達成に関する報告**（達成率･達成数値）
	1　稼働率：第一四半期 75.0%， 第二四半期 80.9%、第三四半期 79.73%、第四四半期 62.7%
	2　前期は朝礼に平均１０日は参加が出来たが、後半は送迎人員が不足した為目標を達成できなかった。
	3　毎月１回はミーティングとミニ研修を行った。
Ⅳ	**業務の改善・見直し**（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）
	1　年間行事及びレクリエーションを目的にあわせて効果的な取り組みを行い、ご利用者の生活機能向上に役立てることを目指した。
	2　レクリエーションの準備、送迎の準備、清掃・雑務チェックリスト等を利用した管理の効率化を行い、ワーカーがご利用者の支援に集中出来るようにした。食事介助の対応方法についてもご利用者にとって負担なく食事を味わうことが出来、少ない職員で対応できる方法を検討・実践した。
	3　感染症対策として法人の研修に参加し、参加できなかった職員には伝達研修を行った。

Ⅴ	**業務の強化・向上**（強化・向上したこと） １　認知症対応型通所介護ひまわりとの連携・協働により、業務の効率化や情報の共有を図り、支援の質を高めた。 ２　短期入所との連携を強め、きめ細やかな支援につなげた。デイサービスを利用して慣れたところでショートステイ利用を望まれる方も多く、情報を共有することで安心感を持っていただけた。階段の担ぎ送迎１名と認知症のご利用者１名のショートステイの送迎の支援も行った。
Ⅵ	**業務の新たな試み**（昨年度より開始した事業・業務・対応など） １　サービス提供時間と加算の見直しをして収益アップにつなげた。 ２　事務方に資料を出していただき、部所内で事業規模のシミュレーションにて最適な規模を検討した。しかし、職員の不足と収支の問題で事業所の閉鎖が決定した。 ３　一部職員についてはご利用者の個別通所計画を把握し、残存機能の維持、向上に繋げる個別援助を行う事が出来た。研修の不足は否めないが、数名の職員はご利用者の生活自立度を評価できるようになった。 ４　災害時対応について勉強会を行ったが､送迎時の対応について十分検討ができなかった。
Ⅶ	**残された課題・評価・反省・その他の特記事項** １　災害時対応について勉強会の時間が少なく、特に送迎時の対応についての検討が不足していた。今後認知症対応型通所介護においても課題となるので、ひまわりにて継続して検討できるよう引き継いでいく。

令和元年度事業報告　部 門 名	報告者：氏　名
デイサービスセンターシャローム横浜 ひまわり	田中　典子

Ⅰ **事業概況・実績報告**（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）

1　今年度は職員の異動、ケガによる休職、通院、体調不良による欠勤などが相次ぎ、人員体制の非常に厳しい１年であった。また、年末にはインフルエンザの流行により、約半数の職員が発熱等で欠勤したため、２日間の休業を余儀なくされた。

2　１０月には台風による周辺道路の大渋滞、交通網の乱れがあり、ご家族の協力を得て、安全確保に努めながら受け入れを行った。

3　年間を通して１５名の新規ご利用者を受け入れたが、うち６名が４カ月以内、１名が８カ月で終了となった。

4　稼働率アップを目指したが、年間平均は８１.９％にとどまった。

Ⅱ **業務目標の達成に関する報告**（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）

1　在宅サービスセンターとして、通所介護・ショートステイ・給食部門・洗濯室・ひかりが丘通所と密に連携し、協働してサービス提供を行った。

2　ご利用者に関わる時間を確保する為､給食部門の協力を得て夕食の提供方法を見直した。

3　認知症ケアの取り組みとして回想法や音楽療法のセッションに参加し、講師と共に振り返りを通してご利用者の理解を深めた。

4　急に状態が変化したご利用者について、医務や専門職と連携して対応を検討した。

Ⅲ **事業数値目標の達成に関する報告**（達成率･達成数値）

1　稼働率は、上半期８０.７％　下半期８３.１％　年平均８１.９％であった。

2　家族懇談会１回、バスハイク１回は行えたが、夕焼けサロンは開催できなかった。

3　内部研修には年間を通して数名しか参加できず、後日伝達研修を行うことで内容を把握に努めた。外部研修は、１名が１回参加したのみとなった。

Ⅳ **業務の改善・見直し**（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）

1　職員一人一人の業務の幅を広げることができなかったため、人員が少ない中での時間外勤務の削減までには至らなかった。

2　他部署より、送迎時の支援を受けられたことで、重介護の方の受け入れを継続することができ、職員のモチベーションを維持できた。

3　ご利用者の状態について、素早い情報共有に努めたが、職員全員に対する有効な手段は見つからなかった。

Ⅴ **業務の強化・向上**（強化・向上したこと）

1　通所介護との連携・協働により業務の効率化や情報の共有を図り、支援の質を保った。

2　送迎時のご家族とのやりとりを大切にし、安心感を持って頂けるよう傾聴に努めた。

3　職員の体調維持やケガにも注意を払うことで、ご利用者の環境が保たれるよう努めた。

	業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など） 1　運営推進会議において、台風など災害時の状況を地域の方と情報共有することができた。 2　災害時の対応についてはミーティングで話し合いの場を設けたが、詳しい検討にまでは至らなかった。 3　給食部門の協力を得て、家庭的な雰囲気を残しながら効率的に夕食を提供できるように配膳方法を変更した。 4　人員体制の厳しい中、ご家族をお招きしてお誕生会をご利用者ごとに行ったが、ご家族との語り合いの場としての夕焼けサロンは一度も開催することができなかった。
V	**残された課題・評価・反省・その他の特記事項** 1　インフルエンザなどの感染症流行時の対応を、医務室や感染症対策委員会などと連携して、マニュアル作成の必要性を痛感した。 2　災害時対応については、地域との情報共有及び連携することで、ご利用者と職員の安全確保ができるよう検討する。

令和元年度事業報告　部 門 名	報告者：氏　名
事務局	高橋　洋子

Ⅰ	**事業概況・実績報告**（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） 1　シャローム横浜事業計画基本方針の下、部門内・部門外のコミュニケーションを図り、お互いに助け合い、チームワーク良く業務を遂行する目標に対しては、毎月の定例ミーティングで検討事項・連絡事項を全員で共有し、また、各委員会・行事にも積極的に関わり、他部門ともコミュニケーションを図ることができた。
Ⅱ	**業務目標の達成に関する報告**（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと） 1　会計処理の正確・迅速化に努め、早期に月次報告ができ、収支報告が速やかにできた。 2　他部門からの相談・修理依頼等に迅速に対応し、解決にむけることができた。 3　法人内研究発表会のテーマに「施設の“身だしなみ”～心地よく整った窓口づくり」を掲げ,美しい環境づくりに励んだ。
Ⅲ	**事業数値目標の達成に関する報告**（達成率･達成数値） 1　光熱、定期購入物品などの更なる経費削減を図るとともに、各種助成金・補助金等で総額 500 万円の目標に対して、非常用自家発電設備改修　1,375,000 円、外国人介護福祉士候補者受入施設学習支援事業補助金　1,568,000 円、神奈川県医療従事者健康保険組合検診補助料他　516,528 円、神奈川県職業安定局　150,000 円　計 3,609,528 円の補助金収入となり、目標達成率　72.2%となった。また、特養部門でも、介護ロボット導入支援として 600,000 円の補助金収入があった。
Ⅳ	**業務の改善・見直し**（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1　築 20 年を経過した施設の内装・設備等の見直しは、特に緊急性の高い特養床の張り替え工事を 6 月中に実施し、清潔かつ安全性が高まった。 2　建物管理の委託業者見直しについて今年度は保留とし、今後継続検討とする。 3　ホームページの写真更新はその都度実施したが､全面リニューアルは実施できなかった。 4　ギャラリー・地下倉庫の整理整頓に努め、何度か整理整頓作業したが、すぐに乱雑になる為、定期的に清掃の必要性を感じた。今後は定期的に作業実施予定。また、防災用品の随時見直しは、各部門の必要備品を取りまとめて購入し、配布した。
Ⅴ	**業務の強化・向上**（強化・向上したこと） 1　業務内容の共有、スキルの習得は充分ではなく、課題が残った。 2　法人理念の具現化のため、事務局は出勤のほとんどの職員が朝礼に参加しているが、他部門の職員の参加人数が少ないため、参加を促す。 3　人員不足の部門にはできるだけ速やかにフォローし、円滑に業務が行えるようにした。 4　玄関ホール・ギャラリー等で季節感が感じられるよう、生花、季節の行事の飾りつけを行うとともに整理整頓に努めた。
Ⅵ	**業務の新たな試み**（昨年度より開始した事業・業務・対応など） 1　内外の研修の積極的参加を促し、学研介護サポートの　e－ラーニングを案内したが、なかなか利用に至らなった。今後はさらに積極的に受講できるように取り組む。 2　高圧ケーブル交換に伴う停電時に災害時の訓練を実施し、職員の意識向上に努めた。 3　過去 5 年分の電気料・水道料をグラフ化し、職員通用口に掲示。職員の意識向上を図り、更なる経費節減に励んだ。 4　毎月の利用料の支払方法を利用者に合わせたシステムの検討はできなかったが、毎月未収金を確実に管理することで、利用者未収金の残高は減少した。

Ⅶ	残された課題・評価・反省・その他の特記事項
	1　事務局は各自専門性の高い業務なので、緊急の場合に対応できるよう互換性を高め、常に情報共有を心がける。 2　補助金の情報収集の強化が課題。

1．営繕の修理状況

No	種類	平成30年度		平成31年度		増減(件)
		件数	割合(%)	件数	割合(%)	
1	建具の破損修理（ドア、鍵、床、家具、壁、等）	182	42.6	354	65.8	172
2	機器の故障修理（乾燥機、掃除機、加湿器、ミキサー、ナベ マジカルテンキー、マットセンサー、電動ベット、換気扇。	67	15.7	64	11.9	-3
3	給排水（水漏れ、配管の詰まり、水道の蛇口、大便器部品 洗面台の水栓、洗面台蛇口部品、シンク排水、etc）	32	7.5	51	9.5	19
4	電気器具の破損（コンセント、スイッチ、LEDライト 蛍光灯、配線、etc）	88	20.6	22	4.1	-66
5	車両（車椅子、リクライニング、自転車、運搬車、etc)	58	13.6	47	8.7	-11
6	その他	0	0	0	0	0
	合計	427	100	538	100	111

2．職員の研修参加状況

施設外研修

	平成30年度		平成31年度		増減	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	5	7	1	1	-4	-6
5月	10	10	11	12	1	2
6月	24	32	23	24	-1	-8
7月	38	53	24	25	-14	-28
8月	18	23	22	25	4	2
9月	27	33	27	30	0	-3
10月	23	25	20	21	-3	-4
11月	29	31	11	12	-18	-19
12月	21	31	9	11	-12	-20
1月	26	30	9	10	-17	-20
2月	31	39	7	7	-24	-32
3月	4	4	0	0	-4	-4
合計	256	318	164	178	-92	-140

施設内研修

	平成30年度		平成31年度		増減	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	1	35	3	81	2	46
5月	1	31	2	246	1	215
6月	3	56	1	10	-2	-46
7月	4	345	3	51	-1	-294
8月	1	20	1	51	0	31
9月	1	48	0	0	-1	-48
10月	2	30	3	36	1	6
11月	2	65	0	0	-2	-65
12月	4	95	0	0	-4	-95
1月	2	41	3	55	1	14
2月	2	12	2	282	0	270
3月	0	0	0	0	0	0
合計	23	778	18	812	-5	34

全体	279	1,096	182	990	-97	-106

3．防災委員会の実施状況

NO	開催日	案　　件	参加人数
第1回	4月24日	自主点検表の確認、第1回避難訓練、ライフラインの点検、防災設備関係	9名
第2回	5月22日	自主点検表の確認、緊急連絡網の確認、ライフラインの点検、防災設備関係	8名
避難訓練	5月29日	日中、震度5想定の避難訓練・土砂災害避難訓練、炊き出し訓練	217名
第3回	6月26日	自主点検表の確認、避難訓練の反省、緊急連絡網の確認、ライフラインの点検	7名
第4回	7月24日	自主点検表の確認、予防査察の報告、消防設備等の確認、防災設備関係	8名
第5回	8月28日	自主点検表の確認、緊急連絡網訓練、防災設備関係、ライフラインについて	8名
第6回	9月25日	自主点検表の確認、緊急連絡網訓練の報告、防災設備、備品点検	6名
第7回臨時	10月10日	台風19号の接近に伴う対応策等の確認を行った	9名
第8回	10月23日	自主点検表の確認、台風19号の対応結果、防災設備、備蓄日の課題の確認	9名
第9回	11月27日	自主点検表の確認、電気点検停電訓練の各部の対応、停電に備えた備品確認	6名
第10回	12月25日	自主点検表の確認、停電訓練の対応について、防災設備・備蓄品の点検、課題	7名
第11回	1月22日	自主点検表の確認、冬季防災訓練、防災設備・備蓄品の課題	9名
第12回	2月26日	自主点検表の確認、冬季防災訓練、防災設備・備蓄品の課題、、避難訓練反省	7名
避難訓練	2月26日	夜間想定火災避難訓練で宿直者が参加いただく、消火栓放水訓練	263名
第13回	3月25日	自主点検表の確認、消防車到着時に必要な情報、夜間帯火災発生時の役割検討	8名
合　　計			581名

4．職員の入退職の状況

●法人内入職者明細

	平成30年度		平成31年度	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
特養3F	2	0	1	2
特養4F	2	0	2	3
医務	2	0	0	1
相談員	0	0	0	1
通所・一般	0	0	0	1
通所・認知	0	0	0	0
訪問	0	0	-	-
栄養課	1	4	1	6
事務局	0	0	0	1
GM上	0	0	0	1
GM鶴	0	0	0	0
ケアハウス	0	0	0	5
ひ地域	0	0	0	0
ひ包括	0	0	0	0
ひ生活	0	0	0	0
ひ居宅	0	0	0	0
ひ通所	1	11	1	10
ひキッズ	0	10	0	2
保育園	3	3	3	3
沖縄放課後デイ	-	-	3	2
計	11	28	11	38

●法人内退職者明細

	平成30年度		平成31年度	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
特養3F	1	1	4	0
特養4F	2	1	0	1
医務	0	0	1	1
相談員	0	0	0	0
通所・一般	0	3	0	2
通所・認知	1	0	0	2
訪問	0	11	-	-
栄養課	1	1	2	8
事務局	0	1	0	2
GM上	0	0	0	1
GM鶴	0	1	0	0
ケアハウス	0	1	1	1
ひ地域	0	0	0	1
ひ包括	0	0	0	0
ひ生活	0	0	0	0
ひ居宅	0	0	0	0
ひ通所	2	9	0	10
ひキッズ	0	0	0	3
保育園	6	0	1	3
沖縄放課後デイ	-	-	0	0
計	13	29	9	35

5.職員の配置状況

R2. 3. 31現在

		介護老人福祉施設	短期入所生活介護	在宅サービス部門 通所(一般)	在宅サービス部門 通所(認知)	高齢者食事サービス	認知症GM部門 GM上白根	認知症GM部門 GM鶴ヶ峰	シャローム桜山	シャローム三育保育園	沖縄放課後デイ	ひかりが丘地域ケアプラザ 地域・交流	ひかりが丘地域ケアプラザ 地域包括支援	ひかりが丘地域ケアプラザ 介護予防支援	ひかりが丘地域ケアプラザ 生活支援	ひかりが丘地域ケアプラザ LSA	ひかりが丘地域ケアプラザ 在宅サービス 居宅	ひかりが丘地域ケアプラザ 在宅サービス 通所	ひかりが丘地域ケアプラザ キッズクラブ	計
		現員	現員	現員	現員	現員	現員	現員	現員	現員	現員	現員	現員	現員	現員	現員	現員	現員	現員	
施設長・園長・所長・管理者	常勤	1		0.2	0.5		0.5	0.5	1	1	1	0.125	0.375				0.1	0.6		6.9
事務局	常勤	2.4		0.6			0.6	0.6	0.3	0.6								0.9		6
	非常勤																			(0.) 0
	パート	(0.25) 1		(0.07)			(0.07)	(0.07)	(0.03)	(0.07)								(0.12)		(0.68) 1
事務員	常勤									1								1		2
	非常勤																			(0.) 0
	パート											(1.31) 2	(1.03) 2					(0.28)		(2.62) 4
生活相談員	常勤	2	1	1	0.6				1			1			1	1		1		9.6
	非常勤															(1.) 1				(1.) 1
	パート				(1.) 1													(0.61) 1		(1.61) 2
介護支援専門員	常勤	3											1	1.2			2.7			7.9
	非常勤																			0
	パート													(0.2)			(0.6) 1			(0.8) 1
社会福祉士	常勤												1							1
計画作成担当者	常勤						0.5	0.25												0.75
	非常勤																			(0.) 0
	パート							(0.2) 1												(0.2) 1
介護職員 保育士	常勤	31.63	7	1.2	1.9		5.5	3.75	1	15								2.9		69.88
	非常勤	(3) 3		(1.) 1				(4.) 4	(1.) 1	(3.) 3								(2.) 2		(14.) 14
	パート	(8.57) 19		(5.58) 8	(4.28) 5		(9.4) 13	(5.8) 8	(2.34) 6	(5.28) 9	(0.63) 1							(7.15) 11		(49.03) 80
放課後児童支援員	パート																		(1.5) 2	(1.5) 2
児童補助員											3									3
補助員	パート										(0.63) 1								(3.41) 10	(4.04) 11
看護師	常勤	3	1	0.35	0.05					1			1							6.4
	非常勤																			0
	パート	(2.71) 4		(0.86) 4	(0.28) 1		(0.2)	(0.2)										(2.06) 4		(6.31) 13
機能訓練指導員	常勤	1.15	0.1	0.1	0.1															1.45
	非常勤	(0.06) 2		(0.08) 2																(0.14) 4
	パート			(0.23)	(0.28)													(0.4)		(0.91) 0
栄養士	常勤	3							1	1										5
	パート																			(0.) 0
調理員	常勤	3				1			2	1								1		8
	非常勤	(2) 2		(0.75) 1	(0.25)	(1) 1														(4) 4
	パート	(5.81) 10							(0.8) 1	(1.22) 3								(3.35) 5		(11.18) 19
清掃	非常勤	(1) 1																		(1.) 1
	パート	(4.65) 6										(0.7) 2								(5.35) 8
洗濯	パート	(1.36) 4		(0.68) 1																(2.04) 5
介助員 運転手	常勤	0.4		0.1			0.1	0.1	0.05	0.1								0.15		1
	非常勤	(1) 1																		(1) 1
	パート	(2.55) 5		(0.43) 1		(1.22) 5	(0.03)	(0.03)		(0.03) 1								(1.4) 4		(5.69) 16
医師	非常勤	(0.05) 2	(0.01)																	(0.06) 2
計		(83.59) 111	(9.11) 9.1	(13.23) 21.55	(9.24) 10.15	(3.22) 7	(16.9) 20.2	(15.5) 18.2	(10.52) 14.35	(30.3) 36.7	(5.26) 6	(3.135) 5.125	(4.405) 5.375	(1.4) 1.2	(1.) 1	(2.) 2	(3.4) 3.8	(24.92) 34.55	(4.91) 12	(242.04) 318.88

		介護老人福祉施設	短期入所生活介護	通所(一般)	通所(認知)	高齢者食事サービス	GM上白根	GM鶴ヶ峰	シャローム桜山	シャローム三育保育園	沖縄放課後デイ	地域・交流	地域包括支援	介護予防支援	生活支援	LSA	居宅	通所	キッズクラブ
事業毎の配置人員	常勤	50.58	9.1	3.55	3.15	1	7.2	5.2	6.35	20.7	4	1.125	3.375	1.2	1	1	2.8	7.55	0
	非常勤	(7.11) 11	(0.01) 0	(1.83) 4	(0.25) 0	(1) 1	(0.) 0	(4.) 4	(1.) 1	(3.) 3	(0.) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(1.) 1	(0) 0	(2.12) 2	(0.) 0
	パート	(25.9) 49	(0) 0	(7.85) 14	(5.84) 7	(1.22) 5	(9.7) 13	(6.3) 9	(3.17) 7	(6.6) 13	(1.26) 2	(2.01) 4	(1.03) 2	(0.2) 0	(0.) 0	(0.) 0	(0.6) 1	(15.25) 25	(4.91) 12
	計	(83.59) 111	(9.11) 9.1	(13.23) 21.55	(9.24) 10.15	(3.22) 7	(16.9) 20.20	(15.5) 18.2	(10.52) 14.35	(30.3) 36.7	(5.26) 6	(3.135) 5.125	(4.405) 5.375	(1.4) 1.2	(1.) 1	(2.) 2	(3.4) 3.8	(24.92) 34.55	(4.91) 12
施設毎の配置人員	常勤	59.68		6.7		1	12.4		6.35	20.7	4	18.05							
	非常勤	(7.12) 11		(2.08) 4		(1) 1	(4.) 4		(1.) 1	(3.) 3	(0.) 0	(3.12) 3							
	パート	(25.9) 49		(13.69) 21		(1.22) 5	(16.) 22		(3.17) 7	(6.6) 13	(1.26) 2	(24.) 44							
	計	(92.7) 119.68		(22.47) 31.7		(3.22) 7	(32.4) 38.4		(10.52) 14.35	(30.3) 36.7	(5.26) 6	(45.17) 65.05							
法人全体	常勤	128.88																	
	非常勤	(21.32) 27																	
	パート	(91.84) 163																	
	計	(242.04) 318.88																	

令和元年度事業報告　部 門 名	報告責任者：氏名
横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業	岩並　仰

Ⅰ	**事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況）** 市営ひかりが丘住宅において居住される高齢者の生活相談、見守り、安否確認を行った。また、住民同士のつながりの場の提供、自助・互助の促進のためにお茶のみサロンを開催した。アウトリーチ活動として、新規入居世帯等への訪問を行い、問題の早期発見、早期解決を目指した。 相談者実数：159 名 相談延件数：466 件（内　来場：37 件　安否確認時：92 件　その他：337 件） 相談内容内訳　病気：69 件，介護：26 件，経済面：25 件，家事：87 件，子育て：0 件， 家族関係：31 件，制度関係：64 件，防犯・被害：28 件，近所関係：45 件，住環境：91 件 相談への対応（重複あり）　傾聴：328，情報提供：122，書類提出支援：41 件， 助言：181 件，その他：87 件，引継ぎ：122 件 ・結果　解決：189 件，不安軽減：55 件，引継ぎ：108 件，継続：185 件，不満：2 件 お茶のみサロン開設数：90 回 サロン参加者実数：59 名（内　男性 7 名　女性 52 名） サロン参加者延数：1213 名（1 回平均 13.5 名） 見守り事業登録世帯総数：146 世帯（9 月末時点での継続：132 世帯） 見守り登録者の性別　男性：53 名　女性：99 名 転入世帯訪問　計 41 件 見守り事業勧奨訪問　計 1848 件　横浜市もしも手帳の配布　計 60 件
Ⅱ	**業務目標の達成に関する報告（努力したこと、達成できたこと・できなかったこと）** １　相談援助：昨年度を上回るペースで件数を受けている。 ２　見守り事業：登録数は一貫して増えている。孤立死は 0 件で良かった。 ３　お茶のみサロン：安定して運営ができている。新たな来場者も呼び込めた。 ４　アウトリーチ活動：合間を見て見守り事業勧奨訪問で回っている。
Ⅲ	**事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）** １　相談対応後の結果〈不満〉件数の目標が 0 件のところ 2 件だった ２　見守り登録世帯の総数１００世帯以上を維持できた。 ３　見守り登録世帯の孤立死件数０　（ここでの“孤立死”の定義は、「死後４日以上経過して発見された事例」とする)。 ４　お茶のみサロン参加者平均１０名以上の維持ができた。 ５　新規入居世帯への、６か月以内の訪問をすることができた。
Ⅳ	**業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）** １　これまでの相談対応について、課題を詳細に整理し分析し、横浜市に報告した。
Ⅴ	**業務の強化・向上（強化・向上したこと）** １　ACP普及啓発の研修・依存症支援の研修等に参加した。 ２　相談対応として、ケアプラザでの精神科医相談会を活用した。

Ⅵ	**業務の新たな試み**（今年度より開始した事業・業務・対応など） １　リフォーム工事対象世帯への支援 （各種手続きの支援や、いわゆる「ごみ屋敷」状態の室内の片づけを含む） ２　お茶のみサロンにて、月一回の手話サークルを開始した。 ３　ACP普及啓発のため、主に見守り登録世帯を中心に『横浜市もしも手帳』の配布を開始した。 ４　住宅火災後の被災者への相談支援を行なった。
Ⅶ	**残された課題・評価・反省・その他の特記事項** 相談対応結果「不満」2件、　*いわゆる「ごみ屋敷」の片づけの支援は、結果として本人の被害妄想につながってしまった。　*経済面での相談、社協の生活福祉資金貸付の活用を検討したがタイムリーな対応につながらなかった。

事業報告書

令和元（2019）年度

社会福祉法人　アドベンチスト福祉会

グループホーム　シャロームミルトスの木

グループホーム　シャロームミルトスの木鶴ヶ峰本町

令和元年度 グループホーム事業報告

施設長　高原　信夫

　認知症高齢者グループホームは、ご利用者・ご家族にとって安心できる我が家です。１ユニット９名と規模が小さく、少人数での生活により、家庭的な環境で生活できます。認知症と診断された方同士が一緒に生活しており、出来ることをできる方が行い、お互いに家事等を分担しながら支え合っています。認知症は、自分がいままで出来ていたことが徐々にできなくなってしまう病気のため、できない所を職員がさりげなくサポートして、ご本人が気にされないよう環境等を整えて、居心地の良い空間を作っているのです。
　当法人では、「寄り添うケアの実践」をサービスの基本姿勢として、サービスを提供していますが、法人内には特別養護老人ホームや認知症高齢者通所介護など、認知症に特化した様々なサービスがあります。そのサービスに対して、グループホームで行われているケアを伝えつつ、学び合うことで、お互いの強みを生かし、弱みの改善につながればと考えています。特に、今年度は、特養において感染症の発症や職員の不適切な接遇の問題、転倒に伴う事故と、重大な課題がいくつも生じた１年でした。その内容は他人ごとではなく、グループホームでも起こりえる内容であるため、今後は法人理念にあるいのちに向き合う姿勢をグループホームにおいてもしっかりと見直し、生命体としての「命」と物語られる人生としての「いのち」の両方を大切にしながら、法人理念を具現化できるよう、組織の中で連携し、職員と共に考え、学びながら一歩一歩前に進んでいきたい。

ホーム長　渡部　紀久

　これまでシャロームミルトスの木（上白根）とシャロームミルトスの木鶴ヶ峰本町は、地域密着型サービスであるグループホームの特性として近隣の方々との絆を大切に運営を行ってきました。新型コロナでマスク不足が深刻化したさなかに、ホームにとって大変うれしい出来事がありました。まず鶴ヶ峰本町の町内会婦人部の皆様より、時を同じくしてミルトスの木（上白根）のご近所にある老人保健施設のスタッフから沢山の手作りマスクを寄贈して頂きました。私共のホームが地域の中で多くの方々に気遣っていただいております事は感謝にたえません。昨年度、ミルトスの木鶴ヶ峰本町では地域貢献の一環として初めて地域の皆様向けに介護相談会を企画しました。しかし、事前の広報が不足していたため、思うような成果を上げることが出来ませんでした。今年度はより多くのご近所の皆様に来ていただけるよう地域の会合にも積極的に参加したいと考えております。
　さて、令和元年度は台風１５号や１９号による大きな自然災害、消費税導入による介護報酬の改定、そして新型コロナウイルスの感染拡大がありました。ホーム内では急変したご利用者が病院に到着後に、ご逝去されるという事例が両方のホームでありました。どの事例をとってもホームの運営に大きな影響を及ぼすものでした。今後、どのようなリスクに遭遇してもホームの運営が堅持できるよう、職員個々の対応力と危機管理システムの構築について更なるレベルアップを図っていかなければならいと痛感する一年でした。

目　次

令和元年度
アドベンチスト福祉会

グループホーム　ミルトスの木　（上白根）　事業報告
事業報告、現況報告 …… ３
行事報告 …… ５
職員研修 …… ６

グループホーム　ミルトスの木　鶴ヶ峰本町　事業報告
事業報告、現況報告 …… ７
行事報告 …… ９
職員研修 …… １０

令和元年度事業報告　部 門 名	報告者：氏名
シャローム ミルトスの木（上白根）	治部　実

Ⅰ **事業概況・実績報告**（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）

1　各ご利用者の能力を活かして、自立した日常生活を維持できるように支援を行った。

2　ＩＣＦの視点に立った細やかなケアプランを作成し、そのケアプランを職員に周知させることで介護サービスを行った。

3　尊厳ある終末期の支援をご家族と面談を重ねることで、ご家族の意向に沿った支援を行うことができた。

Ⅱ **業務目標の達成に関する報告**（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）

1　事故防止に対する職員研修は十分にできなかったが、環境の整備や職員へ意識付けをすることで、事故の件数を減らすことができた。

2　感染症の注意喚起や敏速な対応により、発生を防ぐことができた。

3　終末期を迎えようとするご利用者はいなかったが、ご家族に対して適切な相談や支援を行うように努めた。

4　適宜区分変更の申請を行うことで、介護負担に応じた収益を上げることができた。

Ⅲ **事業数値目標の達成に関する報告**（達成率･達成数値）

1　夜間想定避難訓練を１回(消防署の立ち合いなし)、火災や地震を想定した避難訓練を１回、防災食の訓練を３回行った。

2　外気浴・散歩・買物などにより、１８名全ての利用者を１日１回外気に触れるようにするのは難しく、元気な方を散歩にお連れする傾向にあった。

3　サービス提供体制強化加算（Ⅲ）（3 年以上継続勤務者を 3 割以上維持）は達成した。

4　入居率９７．１％、目標としていた９６％は達成する事ができた。

Ⅳ **業務の改善・見直し**（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）

1　なかなか面会に来られないご家族に対して、年に２回行われる家族会を活用して、ご家族との面談時間を作り、ご家族の意向の聞き取りや安心感を与えることができた。

2　毎月のモニタリングとアセスメントを活かし、ご利用者の変化に迅速に対応したケアプランの作成をすることができた。

3　事故の件数を減らすことはできた。しかし、職員全員が適切に対応できるように、一連の流れをシステム化して研修を受け、対応方法を習得するまでには至らなかった。

Ⅴ **業務の強化・向上**（強化・向上したこと）

1　ご利用者の人権尊重や尊厳を守るために、回想法の取り組みを試みた。

2　介護記録作成マニュアルは整備したが、それを検証するまでには至らなかった。

3　職員へ食費のコスト削減を意識付けさせることで、コスト削減に努めた。

Ⅵ **業務の新たな試み**（昨年度より開始した事業・業務・対応など）

1　ホーム主催の交流会を開催できなかったが、地域貢献や近隣住民との交流を深めることは、グループホームの理解や、災害時の協力体制をとるためにも必要なことだと考える。

2　一日の業務予定表を再確認して、必要な業務を適正な人員できるように調整するまでには至らなかった。

Ⅶ **残された課題・評価・反省・その他の特記事項**

1　夜間の救急対応について、担当する職員に研修を行うことにより、オンコール体制が運用できるように取り組んでいく。

2　回想法を本格的に取り入れることで、ご利用者の人権尊重や尊厳を守るための職員教育にも活かしていく。

1　各ユニットの入居者状況　　各階 9 名定員　　合計 18 名

ユニット	性別	要介護度	年齢	ユニット	性別	要介護度	年齢
1 階	男性	2	94	2 階	女性	2	83
1 階	女性	4	93	2 階	女性	3	93
1 階	女性	3	95	2 階	女性	2	77
1 階	女性	4	92	2 階	男性	2	89
1 階	女性	2	94	2 階	女性	3	95
1 階	女性	2	86	2 階	女性	3	86
1 階	女性	2	80	2 階	女性	2	94
1 階	女性	1	85	2 階	女性	3	86
1 階	女性	2	95	2 階	女性	2	94

1 階　平均年齢　90．4 歳　　要介護度　2．44　　最高齢 95 歳
2 階　平均年齢　88．6 歳　　要介護度　2．44　　最高齢 95 歳
ホーム平均　89．5 歳　　要介護度　2．44

2　入院者数

区分 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女性	0	0	0	2	3	1	1	1	2	1	0	0	11
計	0	0	0	2	3	1	1	1	2	1	0	0	11

3　入居・退居の状況

区分	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入居	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	1	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	1	6
入居者合計		1	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	1	6
退居	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	1	0	0	0	0	1	1	1	1	0	1	0	6
退去者合計		1	0	0	0	0	1	1	1	1	0	1	0	6

4　行事報告

月	行　　事　　内　　容	月	行　　事　　内　　容
4	入社式 自治会総会参加 歌謡ショー	10	里山ガーデン散策　カレーランチ グループホーム交換研修
5	木曽路ランチ外食 里山ガーデン散策	11	シャロームデイ 家族会
6	ピアノ演奏会 家族会	12	クリスマス会ホームパーティ ひかり忘年会参加 年越しそば　情報公表
7	今宿中学校生福祉体験　七夕 シャローム納涼祭 ひかり外出レク参加	1	元旦　おせち料理 初詣　獅子舞 鍋パーティー
8	ららぽーと横浜おやつ外出 夕涼み会(花火) 歌謡ショー	2	節分 バレンタインデーおやつレク 防災食訓練
9	避難訓練　三育保育園来訪 ミコの会合唱コンサート けいあいの郷お祭り	3	夜間想定避難訓練・消火訓練 お花見ドライブ

- 毎月１回・・・・・書道クラブ
- 毎月１回・・・・・腹話術ボランティア茅野様
- 毎月２回・・・・・音楽療法
- 毎月第１火曜日・・・・紙芝居のボランティア神田様
- 毎月第１火曜日・・・・将棋のボランティア横山様
- 毎月第２水曜日・・・・ピアノ演奏ボランティア村井様
- 毎月第１木曜日・・・・歌の会ボランティア下田様
- 毎月第３土曜日・・・・お茶のみサロン（上白根ケアプラザ）
- 1、4、7、12 月・・お茶会ボランティア
- 年３回・・・・・・ミコの会
- 各誕生日・・・・・・・おやつにケーキでお祝い

5　運営推進会議

奇数月年６回開催　※出席者：地域住民２名・ケアプラザ職員１名・入居者１名
・利用者家族１名・ハウス長・ホーム長・各ユニット長

6　職員研修

研修名　　　　（内）=法人内研修	研修日	参加人数
音楽療法を学ぶー認知症ケアの視点から　（内）	4月17日	2名
グループホーム協議会の研修 『グループホームについて語り合おう』	5月8日	1名
個人情報保護・法令順守（内）	5月22日	1名
正しいおむつの当て方(グループホーム連絡会)	6月4日	1名
中間層向け　マネジメント研修（内）	7月10日	1名
力が抜ける　精神障害の基礎講座（内）	7月17日	2名
認知症実践者研修	7月31日～11月21日	1名
安全運転講習会（内）	8月27日	1名
ターミナルケア（内）	9月18日	2名
感染症対策指導者養成研修	10月1日	2名
感染症勉強会（内）	10月16日	3名
法人内研究発表会（内）	11月21日	3名
回想法基礎講座	11月26日	1名
安全運転講習会（内）	12月24日	2名
中間層向け　マネジメント研修（内）	1月15日	1名
高齢者虐待防止のための 安心づくり安全探しアプローチ（内）	2月20日	1名

・全体ミーティング、ユニットミーティング開催　　毎月１回
・ケアプラン見直し　　半年毎

令和元年度事業報告　部 門 名	報告者：氏名
シャローム ミルトスの木鶴ヶ峰本町	浅岡　真美

Ⅰ　**事業概況・実績報告**（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）

1　ＩＣＦの視点に立ったケアプランを作成し、介護サービスを提供した。

2　ご家族と面談の時間を設け、ホームでの生活の上で、ご家族からの意向を確認した。

3　要介護３のご利用者ご家族と終末期をどの様に迎えるのか、又ご利用者ご本人からのご意向があるのかを確認。施設別の特徴をお伝えした。

Ⅱ　**業務目標の達成に関する報告**（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）

1　消防署の協力により、水消火器での消火訓練を行い、具体的な避難方法などアドバイスを受けた。防災食をご利用者に試食して頂いた。飲料のキャップが開けられるかなど高齢者向けに適切な食品であるかを検討した。

2　ホーム内で感染症が蔓延する事は無かった。

3　今年度、ホームでの看取りは無かった。

4　スムーズな入退居により、空室日数を削減した。

Ⅲ　**事業数値目標の達成に関する報告**（達成率･達成数値）

1　夜間想定避難訓練を年１回、火災や地震を想定した防災訓練を年１回行なった。

2　外気浴・散歩・買物などにより、全利用者が１日１回外気に触れるよう誘導したが、７月・８月の猛暑などにより実施出来ない期間もあった。

3　サービス提供体制強化加算（Ⅲ）（３年以上継続勤務者を３割以上維持）は達成した。

4　入居率９６．８％であり、目標としていた９６％を達成した。

Ⅳ　**業務の改善・見直し**（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）

1　グループホームでのご利用者も重度化しており、車椅子を使用する方が多くなっているフロアのレイアウトを適宜変更し、ご利用者同士の接触事故防止に努めた。

2　職員が休憩室として使用できる場所がないため、各ユニットの和室にカーテンを設置し休憩場所の一部として活用できるようにした。またロッカールームで休憩が取れる様にレイアウトを変更した

Ⅴ　**業務の強化・向上**（強化・向上したこと）

1　運営推進会議は2か月に1回行ったが、地域の防災訓練は台風のため中止となった。

2　所属している町内会婦人部様より、手作りマスクのご寄付を頂いた。また、車椅子のご寄付も頂いた。これからも地域密着型施設として、交流を深めていきたい。

Ⅵ　**業務の新たな試み**（昨年度より開始した事業・業務・対応など）

1　ホームで介護相談会を開催した。福祉用具メーカーの協力を得て、電動ベットや車椅子等をフロアに展示した。

2　外出が難しい夏の暑い時期に、ホーム内で夏祭りや盆踊りを行った。射的や風船ヨーヨー、またご家族の協力を得て希望するご利用者に浴衣を着て頂いた。

Ⅶ	残された課題・評価・反省・その他の特記事項
	1　介護相談会を開催したが、地域住民への周知が不足していた。今後は町内会主催の行事に今以上に参加し、ホームを知って頂く機会を作っていく。 2　認知症の理解を深めて頂ける様にご家族との話し合いを多く持つと同時に、ホームでの行事にも参加して頂ける様に企画を考えていく。

1　各ユニットの入居者状況　　各階 9 名定員　　合計 18 名

ユニット	性別	要介護度	年齢	ユニット	性別	要介護度	年齢
1 階	女性	3	79	2 階	女性	2	83
1 階	女性	3	89	2 階	女性	2	80
1 階	女性	4	92	2 階	女性	2	97
1 階	女性	3	90	2 階	女性	5	89
1 階	女性	3	95	2 階	女性	1	100
1 階	女性	1	88	2 階	女性	1	88
1 階	女性	2	87	2 階	女性	1	86
1 階	女性	2	84	2 階	女性	2	87
1 階	女性	3	88	2 階	女性	4	84

1 階　平均年齢　88. 0 歳　要介護度　2. 67　最高齢 95 歳
2 階　平均年齢　88. 2 歳　要介護度　2. 22　最高齢 100 歳
ホーム平均　88. 1 歳　要介護度　2. 44

2　入院者数

区分　月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女性	1	0	2	1	0	0	0	1	1	0	0	0	6
計	1	0	2	1	0	0	0	1	1	0	0	0	6

3　入居・退居の状況

区分	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入居	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3
入居者合計		0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3
退居	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3
退居者合計		0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3

4　行事報告

月	行　事　内　容	月	行　事　内　容
4	入社式　お花見ドライブ　家族会	10	グループホーム交換研修 防災避難訓練
5	菖蒲湯 母の日 タカナシバラ園見学 家族会	11	シャロームデー（ご家族も同行） 横浜市実地指導
6	バーベキュー大会　おやつ外出	12	クリスマス会ホームパーティ ランチ外食　ミコの会コンサート 年越しそば　外部評価
7	今宿中学校生福祉体験　七夕かざり スイカ割り	1	元旦　おせち料理　初詣　獅子舞 どんど焼き　鍋パーティ
8	ミルトス夏祭り　おやつ外食	2	節分 防災食訓練
9	町内会納涼祭　お神輿見学 敬老会	3	雛祭り　夜間想定避難訓練 お花見ドライブ

毎月１回・・・・・書道クラブ　ボランティア望月様

- 毎月１回・・・・・紙芝居　ボランティア神田様
- 毎月２回・・・・・音楽療法　西職員
- 毎月１回・・・・・腹話術　ボランティア茅野様
- 毎月１回・・・・・歌の会　ボランティア下田様
- 毎月第２水曜・・・ピアノ演奏　ボランティア村井様
- 年２回　・・・・・旭区混声合唱団　ミコの会様（13～14 名）
- 毎月１回・・・・・旭区地区センター　ボランティアなごみの会様
- 不定期　・・・・・包丁研ぎ　ボランティア津久井様
- 各誕生日・・・・・おやつにケーキ、食事の際にお赤飯などでお祝い、写真入り色紙

5　運営推進会議

偶数月年６回開催　※出席者：地域住民 1～2 名・ケアプラザ職員１名・入居者１名
・利用者家族１名・施設長・ホーム長・各ユニット長

6　職員研修

研修名　　　（内）=法人内研修	研修日	参加人数
音楽療法を学ぶ（内）	4月17日	1名
個人情報保護・法令順守（内）	5月22日	1名
マネジメント研修（６月から８月まで計３回）	6月5日	1名
普通救命講習Ｉ	7月5日	1名
虐待防止と精神疾患の理解（内）	7月17日	1名
安全運転講習会（内）	8月26日	2名
ターミナルケア（内）	9月18日	3名
認知症実践者研修（６月から９月まで計７回）	9月24日	1名
感染症予防講習会	9月26日	2名
認知症高齢者グループホームの明日を考える	10月11日	2名
法人内研究発表会（内）	11月21日	6名
リスクマネジメントと苦情対応の心得（内）	1月22日	1名
高齢者虐待防止のための 安心づくり安全探しアプローチ（内）	2月20日	1名

・全体ミーティング、ユニットミーティング開催　　毎月１回
・ケアプラン見直し、カンファレンス　　　　　　　半年毎

事業報告書

令和元（2019）年度

社会福祉法人　アドベンチスト福祉会

ケアハウス　シャローム桜山

2019 年度　シャローム桜山事業報告

施設長　村本英邦

　コロナウィルス感染症の対応に追われる中で、昨年度の事業を振り返って思うことは、「日常の脆さ」である。本年 3 月以前の事業は基本的に平時の中で行われてきた。もちろん、突発的な出来事は多種あったが、事業内容が大きく影響を受けるような社会的な有事というものはなかった。今回のコロナウィルス感染症によって脆くも崩れた日常業務のあり方について、改めてリスク管理、特に BCP（事業継続計画）の重要性を実感している。
　また、期中（7 月）に行われた施設長の交代はやはり大きな出来事の一つである。交代の事由を以て期中に基本方針を変更することは当然ないが、実践の方法については異なる考え方で進めることはある。その意味で今回の施設長交代は少なからず運営に影響を与えたであろう。大幅な方針の変更はないまでも、見直しを必要とする点は多数あると分析する。この事業報告においてはあくまでも前任者が立てた事業計画についてその実践報告をする。

　平成 31 年度は「自立と自律」というテーマを、毎月行われる「入居者懇談会」で確認することで施設を機能させるという考え方で運営された。「施設内で進む高齢化と虚弱化に対して施設側は何ができるか」という観点から検討を重ねた。基本的に自立者の施設であるとの前提は、時に入居者の不安を煽ることになるが、介護保険サービスの適切な導入や緊急時のフォローを概ね生活相談員がほぼ一人で関わりながら対応してきた。しかし、この状況は生活相談員に過度の負担をかけることとなり、その状態を打開できないまま時間を経たことは様々な観点から課題と考える。結果、事業年度の中期において適切な入所者数の確保を果たせず、一時的ではあるが多数の空室が出来たことは大いに反省しなくてはならない。このことから、状況に応じた人事配置がいかに大切であるかを実感している。

　さらに今回のコロナウィルス感染症の拡大状況から「日常の脆さ」を思い知らされた。このことから、「日常」の捉え方を幅広く持つことが大切であると実感している。例えば制度に定められた範囲の施設運営とそれを越えない考え方に依存しすぎると、有事の際の現場の判断力を鈍らせることがある。緊急時の適切な判断力を現場が有する意味でも、冒頭に述べた事業継続計画については平常時から複数のオプションを持ち、責任者の在不在を問わず、現場における「立場を越えたリーダーシップ」が十分に発揮できる環境を構築するべきだと実感している。

　2019 年度の事業報告を通して課題の改善が適切に行われ、結果が次年度に適切に反映されることを願い、本報告書を提出する。

令和元年度事業報告　部 門 名	報告者：氏名
ケアハウス　シャローム桜山	田中　綾子

Ⅰ **事業概況・実績報告**（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）

1　法人の理念を尊重し、入居者が自立した生活を維持できるよう必要なサービスの取り次ぎや紹介など誠意をもって支援に努めた。

2　懸案事項となっていた老朽化による設備面での工事が進捗した。

3　1月はインフルエンザ、2月は新型コロナウイルス感染予防対策として通常業務の内容を大幅に変更して業務を遂行した。

Ⅱ **業務目標の達成に関する報告**（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）

1　入居者の自立性を尊重し、心身の状態を把握し相談に応じると共に、ご家族との連携の強化に努めた。

2　懸案事項だった浴室脱衣室トイレ換気扇の補修工事を終了した。

3　屋上から流れるごみ置き場までの雨水対策として、屋上に屋根の設置工事を行った。

4　レジオネラ菌対策として長年の経年劣化による浴槽殺菌注入ユニットの交換をした。

5　3階廊下天井からの雨漏りは、業者により実地調査を行ったが明確な場所の特定ができず応急的に天井裏にバケツを置いて対応している。

Ⅲ **事業数値目標の達成に関する報告**（達成率･達成数値）

1　入居率は95.3%、入居率達成目標98%を2.2%下回った。入居11名、退去10名

Ⅳ **業務の改善・見直し**（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）

1　若葉台オンデマンド実証実験に参加した。入居者のニーズと直接スマホで予約できることが確認できたが、取り次ぎなどの支援が必要とされる。

2　毎月のケアハウス運営委員会のあり方を見直し、今後ケアハウス全体ミーティングと区分けし業務の統一化を図る。

Ⅴ **業務の強化・向上**（強化・向上したこと）

1　救急搬送時、緊急時の対応として各居室に設置の「緊急時情報」のツールを活用した。緊急時の入居者への安心感に繋げることができた。

2　入居者勉強会は年 6 回実施したが、実施内容が健康維持目的に偏り、入居者の全体的なニーズまでには至らなかった。

Ⅵ **業務の新たな試み**（昨年度より開始した事業・業務・対応など）

1　アイパッドとファーストケアによる記録の導入を取り入れた。

2　新型コロナウイルス感染予防対策として、食事の提供はお弁当容器で提供している。長期対策として、経費節減の面からお弁当箱に変更していく。

Ⅶ **残された課題・評価・反省・その他の特記事項**

1　入居率低下傾向にある原因として、バス停までの歩行距離が長い。大型車の往来が危険なことからバス停までの送迎や他のツール活用の検討をしていく。

2　自立型ケアハウスとしての感染症対策について、具体的にマニュアル化する。

3　福祉に於ける記録の重要性を再認識して、アイパッド導入による記録のスキルアップを図る。

１．現況の報告

1）人数・年齢（令和２年３月31日現在）

区 分	人 数	最高年齢	最低年齢	平均年齢
男性	12	91	66	81.8
女性	37	97	76	86.2
合計	49			83.6

2）年齢階層別表（令和２年３月31日現在）

年齢／性別	男 性	女 性	計	比 率(%)
～59才	0	0	0	0
60～64	0	0	0	0
65～69	1	0	1	2
70～74	1	0	1	2
75～79	2	5	7	14
80～84	1	11	12	25
85～89	6	9	15	31
90～94	1	7	8	16
95～99	0	5	5	10
100～	0	0	0	0
合 計	12	37	49	100

3）入居前住所別人数（令和２年３月31日現在）

区 分	神奈川県			神奈川県外		合計
	市内旭区	市内旭区外*1	横浜市外*2	東京都*3	都外*4	
男性	0	6	2	3	1	12
女性	10	9	7	8	3	37
計	10	15	9	11.	4	49

＊1　港南区２名・保土ヶ谷区５名・戸塚区１名・磯子区１名・青葉区１名・瀬谷区２名・南区３名
＊2　平塚市１名・川崎市１名・鎌倉市２名・相模原市２名・大和市１名・横須賀市２名
＊3　台東区１名　・大田区１名・小平市１名・江東区２名・多摩市２名・立川市２名・東久留米市１名・世田谷区１名
＊4　千葉県１名・埼玉県２名・茨城県１名

4）入居・退去の状況（令和元年度）

区 分		4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入居	男性	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0	5
	女性	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	6
入居者合計		0	3	0	1	1	1	0	0	2	0	3	0	11
退去	男性	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
	女性	3	0	0	0	2	0	1	0	1	0	0	1	8
退去者合計		3	0	0	0	2	0	2	0	1	0	0	2	10

5）入院者数（令和元年度）

区　分	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男性	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	3
女性	4	2	3	3	3	2	2	1	1	2	1	5	29
計	4	2	3	3	3	2	2	1	3	2	1	6	32

6）入居者のＡＤＬ（令和2年3月31日現在）

区分	自立	一部介助	内訳(一人につき複数項目の該当あり)								
			入浴	排泄	歩行	配膳	洗濯	掃除	通院	薬管理	その他
男性	10	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0
女性	25	12	9	0	5	5	4	8	6	0	0
計	35	14	9	0	0	5	4	10	6	0	0

7）ホームヘルパー利用状況（令和2年3月31日現在）

	週1回利用	週2回利用	週3回利用	週4回利用	週5回利用	週6回利用	週7回利用	合計
男性	2	0	0	0	0	0	0	2
女性	7	4	1	0	0	0	0	12
計	9	4	1	0	0	0	0	14

8）デイサービス利用状況（令和2年3月31日現在）

区分	週1回利用	週2回利用	週3回利用	週4回利用	週5回利用	合計
男性	1	0	0	0	0	1
女性	2	0	0	0	0	2
計	3	0	0	0	0	3

9）介護保険認定者一覧（令和2年3月31日現在）

区分	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
男性	10	0	1	0	1	0	0	0	12
女性	25	3	5	2	1	1	0	0	37
計	35	3	6	2	2	1	0	0	49

10）懇談会出席率（令和元年度）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間平均出席率
人数	31	32	36	31	30	30	35	33	35	0	34	0	33
%	60	68	77	65	61	63	73	72	73	0	68	0	68

・欠席者の理由　【　入院・受診・外出・外泊・旅行・体調不良　】

２. 定例行事の報告

行事名･実施回数	内 容	会 場
① 懇談会 10 回	毎月第 1 月曜日午前 11:00～12:00 連絡事項等の説明、生活全般にわたって希望・要望、意見を聞く会 （延べ 327 名参加）	食堂
② 誕生日会 10回	毎月第 1 月曜日昼食時	食堂・
③ 単独･合同 避難訓練 3 回	単独＝毎月第 1 月曜日午後 2 時 合同＝12 月 2 日、2 月 25 日 （延べ 141名参加）	全館・
④ お茶飲み会6回	毎月第 1 金曜日午後 2 時 （延べ42名参加）	食堂
⑤ こもれび喫茶	栄養課主催 毎月第 2 日曜日午後 2 時	食堂
⑥ 行事･特別食	お正月 祝い膳(1 月 1 日)	食堂
	特養主催 納涼祭(7 月 28 日)	横浜三育小校庭他
	敬老の日 祝い膳(9 月 16 日))	食堂
	シャロームデー （10 月 20 日）	特養中庭他
	クリスマス ディナー(12 月 25 日)	食堂
	大晦日 年越しそば(12 月 31 日)	食堂
⑦ 行事食ほか	ピザパーティー、バーベキュー、釜戸、ざるうどん、あんみつ、ラーメン、焼き芋、アップルパイなど主に栄養課主催 他、すいか食べ放題	食堂、中庭

３． 入居者勉強会

名 称	講 師	開催日	出席者数	会 場
ツボで元気 健康教室	(株)フレアス 佐野 一夫	6 月1日	9 名	食 堂
椅子でらくらく ストレッチ体操教室	八木 桂子	8 月 19 日 10 月 14 日 11 月 11 日 12 月 9 日 2 月 17 日	延べ 70 名	食堂

４． グループ活動の報告（趣味の会）

名 称	講 師	開催日	平均参加者数	会 場
習 字	入居者有志	毎月第 1･3 火曜日	3 名	食 堂
絵手紙の会	吉田玲子 （ボ）	毎月第 4 火曜日	5 名～8 名	食 堂
コーラスの会	福田貴美子(ボ)	毎月第 3 日曜日	10 名～15 名	食 堂
カラオケ･クラブ	入居者有志	毎月第 1 土曜日	8 名から 10 名	デイホール
桜の園	白石 尚	毎週金曜日	10 名～12 名	3Fラウンジ
ラジオ体操同好会	入居者有志	毎朝 6 時 50 分より	8 名	特養中庭

（ボ）→ボランティア講師

４．特養シャローム横浜へのボランティア活動

入居者がボランティア活動をしています。他の施設にも奉仕に出かけています。
（令和元年度）

- ● 縫物 １名
- ● 特養３階シーツ交換 １名
- ● 園芸 ３名
- ● デイサービス ４名
- ●特養営繕（障子、網戸等） ２名
- ●特養３階傾聴ボラ １名

令和元年度　アハウス シャローム桜山 行事実績表

	月　日	行　事　名　称
1	4月5日	お茶のみ会
2	5月1日	菖蒲湯
3	5月1日	ピザパーティー
4	6月11日	入居者勉強会　ツボで元気　健康教室
5	6月16日	バーベキュー
6	6月17日	リコーダーと篠笛コンサート
7	7月5日	三育小３年生と七夕飾り
8	7月7日	かまどで茹でた枝豆ととうもろこしを食べましょう会
9	8月3日	第１7回　YYホームコンサート
10	8月9日	スイカ食べ放題
11	8月19日	椅子で楽ちんらくらくストレッチ体操
12	9月1日	ピザパーティー
13	9月6日	お茶のみ会
14	9月9日	リコーダーと篠笛コンサート
15	10月4日	お茶のみ会
16	10月14日	椅子で楽ちんらくらくストレッチ体操
17	10月25日	入居者健康診断
18	11月1日	お茶のみ会
19	11月3日	焼き芋パーティー
20	11月4日	避難訓練
21	11月11日	椅子で楽ちんらくらくストレッチ体操
22	12月2日	合同避難訓練
23	12月6日	お茶のみ会
24	12月9日	椅子で楽ちんらくらくストレッチ体操
25	12月19日	ゆず湯
26	12月20日	リコーダーと篠笛コンサート
27	12月21日	第１8回　YYホームコンサート
28	12月25日	クリスマスディナー
29	1月1日	令和２年ケアハウス新年会
30	1月10日	お茶飲み会
31	2月2日	ピザパーティー　（フルーツピザ）
32	2月3日	節分　豆まき
33	2月17日	椅子で楽ちんらくらくストレッチ体操
34	2月25日	合同避難訓練

事業報告書

令和元（2019）年度

社会福祉法人　アドベンチスト福祉会

横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ

〒241-0001 神奈川県横浜市旭区上白根町807-2 TEL(045)953-6890

【 目　次 】

１　所長（基本方針）　……………………………………………………　２

２　地域包括支援センター　…………………………………………………　３

３　地域活動交流部門　………………………………………………………　４

４　生活支援体制整備事業　…………………………………………………　６

５　居宅介護支援事業　………………………………………………………　８

６　通所介護事業　……………………………………………………………　１０

７　給食部門　…………………………………………………………………　１１

令和元年度事業報告において「横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業」を「横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ」の部門として記載しておりましたが、「横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業」は横浜市健康福祉局より法人が受託している事業であり「横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ」の部門ではないため、令和元年度事業報告の記載箇所について修正及び削除を行いました。誤った記載のあったことをお詫びいたします。

令和3年5月11日　社会福祉法人アドベンチスト福祉会

令和元年度　横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ事業報告

所長　下山 直樹

横浜市ひかりが丘地域ケアプラザは「地域の身近な福祉拠点」として「地域づくり」「地域のつながりづくり」を行うとともに、地域及び行政と連携し、地域の中での孤立を防ぎ、支援が必要な人を把握し支援につなげていくことを目的として設置されています。この目的を踏まえ策定した令和元年度の基本方針の成果についてご報告いたします。

【基本方針１】

福祉避難所としての役割については前年度も区役所主導のもと連絡会及び訓練にて確認してきました。当ケアプラザ内における訓練の実施等を通じて災害時に適切に機能することができるよう準備を行います。

【成果】

令和元年９月12日に当ケアプラザにて福祉避難所開設訓練を実施しました。地域及び行政の皆さまにご協力をいただき、福祉避難所開設時に必要な手順や関係機関との連携等について確認ができました。今後も福祉避難所連絡会への参加及び自主的な訓練等の機会を通して、災害時に適切な対応ができるよう確認を行います。

【基本方針２】

西ひかりが丘団地における地域医療福祉拠点化については、地域住民の誰もが気軽に参加でき、かつ課題解決のきっかけが得られる場となるよう、地域住民と協働して話し合いをすすめます。

【成果】

西ひかりが丘団地自治会及び生活支援アドバイザーと地域課題の共有を図りながら、ＵＲ都市機構担当者と協議を続けています。特に商店街空き店舗の活用については店舗設置担当者との相談ルートが構築できました。

【基本方針３】

四季の森小学校放課後キッズクラブの新設等の機会を活かし、ボランティアコーディネートの充実を図ります。

【成果】

四季の森小学校放課後キッズクラブにおいては年間合計49名（延べ人数）がボランティアとして活動を行いました。

令和元年度事業報告　部 門 名	報告者：氏　名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 地域包括支援センター	西村　明史

Ⅰ **事業概況・実績報告**（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）

高齢者が住み慣れた地域で、尊厳あるその人らしい生活を継続することができるよう、地域の高齢者の心身の健康維持、介護予防・保健・福祉・医療の向上、生活の安定のために必要な援助・支援を包括的に実施した。

Ⅱ **業務目標の達成に関する報告**（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）

下記業務を区福祉保健センターと密接な連携を図りつつ行った。

1　包括的支援事業：

ア、第一号介護予防支援事業…基本チェックリスト該当者による対応はなし。

イ、総合相談支援業務　　ウ、権利擁護業務

エ、包括的・継続的ケアマネジメント業務　　オ、在宅医療・介護連携の推進

カ、生活支援サービスの体制整備　　キ、認知症高齢者の総合的支援

2　介護予防支援業務…生活支援体制整備部門、地域活動交流部門と連携の上で実施。

3　第一号介護予防支援事業（居宅要支援被保険者に係るもの）…給付管理は年間1639件

Ⅲ **事業数値目標の達成に関する報告**（達成率・達成数値）

1　相談には迅速・丁寧な対応を心がけた。必要があれば訪問して相談を実施した。
より的確な支援をするために資質の向上に努めた。…相談件数年間1565件、月平均130件

2　介護予防事業の開催及び認知症予防、ロコモ予防等の普及啓発…年間20回

3　権利擁護の普及啓発研修…5回　認知症の勉強会…5回（ユマニチュードDVD上映会含む）

4　地域ケア会議の開催　個別会議　年4回　包括レベル会議　年2回

Ⅳ **業務の改善・見直し**（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）

1　地域のアセスメントや事業の評価・再構築をしていくために、地域ケア会議等を通し、資料等のデータ化・見える化に取り組み、より客観的な分析を試みた。依存症や相談につながりにくい精神保健福祉の課題を持つ方のニーズの明確化、解決策の検討を試みた。

2　多問題ケースなどの相談に対応すべく、昨年度に引き続き、経済的課題、成年後見、虐待等権利擁護の相談に適切に対応できるよう研修の参加や企画に努めた。連携強化、課題解決を図るべく、障害者支援機関と定期的にカンファレンスを実施した。

Ⅴ **業務の強化・向上**（強化・向上したこと）

1　行政や地区社協、自治会や地域の介護保険施設、医療機関、障害福祉関係機関、商店、ボランティア等様々な方々とのネットワークの維持強化に努めた。

2　生活支援体制整備部門と連携し、徘徊SOSローカルネットワーク、施設連絡会等の地域のネットワークに関する関係機関との情報交換、連携強化に努めた。
旭区ＳＯＳネットワーク協賛店等への訪問：40店舗・施設・機関　　施設連絡会：年4回

3　精神保健福祉の相談に適切に対応できるよう専門機関の情報を集め、連携を模索した。

Ⅵ **業務の新たな試み**（昨年度より開始した事業・業務・対応など）

1　生活支援体制整備部門、地域活動交流部門、区役所、区社協との連携から、フードバンクによる食の支援が実現した。

2　精神科医師を交えての相談会を隔月で１回、年５回（１回中止）企画・開催した。

Ⅶ **残された課題・評価・反省・その他の特記事項**

1　8050問題への対応が求められており、支援体制の確立が課題となっている。

令和元年度事業報告　部 門 名	報告者：氏　名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 地域活動交流部門	川崎　数美

Ⅰ	**事業概況・実績報告**（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） 1　住民主体の地域づくりを、関係機関や他職種の方々と連携して支援に努めた。 2　地域福祉保健計画（災害に備える・仲間作り・多世代交流・健康づくり・高齢者や障がい者、子どもの見守り・助け合いの仕組みをつくる）の推進に努めた。 3　情報収集と周知方法を整え、場の提供と交流を生活支援コーディネーターと連携して進めた。 4　設備や建物の適正管理と経費削減に取組むことができた。→大規模修繕工事他
Ⅱ	**業務目標の達成に関する報告**（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと） 1　関連機関や他職種と連携する為に会合や連絡会へ積極的に参加した。 2　地域包括支援センターや生活支援体制整備事業等と連携して相談内容の分析を行い地域支援事業に繋げるため、3者で協働して地域に出かける機会を持つことができた。 3　地域のニーズに即した、自主事業が実施できるよう、自治会や他のケアプラザなどと情報を共有するように努めた。精神障害者サロン連絡会に所属し、活動を積極的に行うことができた。 4　利用者が安心して使用できるように、敷地内の建物や庭、設備等を整える目標に対しては、地域のボランティアと地域児童の福祉活動を繋げて、庭の手入れを行った。また横浜市の大規模修繕を受けることにより、建物の補修美化を行うことができた。 5　あたたかい窓口対応と、迅速な対応を行えるようカウンター周りの整理を行なった。
Ⅲ	**事業数値目標の達成に関する報告**（達成率･達成数値） 1　主催事業を月１０種、延べ３４回（３ヶ月平均）開催できた。 2　来館者数月　２，０００名以上→月平均2,063名と達成できた。 3　固定経費の削減３万円／月（水道光熱費・通信費・コピー代など）を目指し、年間で1,009,420円の削減ができた。
Ⅳ	**業務の改善・見直し**（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1　見守りネットワークや居場所作りなどの需要に対して、提供できるよう、地域住民に耳を傾け、地域住民のパートナーとして活動した。 2　見落としや間違いを減らすために、Ｇセッションの機能を利用してサブコーディネーターとの情報共有を強化することができた。 3　ネットワーク環境の整理や、水道光熱費、建物管理、警備などを見直す目標に対し、設備管理の業者を変更して改善を図った。

Ⅴ	**業務の強化・向上**（強化・向上したこと） 1　地域ボランティア団体への支援や情報提供、各団体からの意見収集に努めることを心がけた。生活支援コーディネーターと連携し、新規に活動希望の方との立上げ準備を開始した。 2　災害など有事の際の役割確認と、地域との防災協力体制の強化を行う機会として、福祉避難所開設訓練を行うことができた。これにより参加者全員で意識を新たに持つことができた。 3　近隣の小学校にアプローチし、地域の高齢者のグループとの交流の場を設定することができた。これを次年度にも続けていきたい。 4　地域防災・防犯・トラブル防止につながる情報を毎月の便りに発信した。 5　各種募集記事など、地域への情報発信を毎号便りに掲載した。 6　環境の向上に努めながら、経費削減を行うため、施設内の状況把握に努め、修繕・整理整頓を行った。
Ⅵ	**業務の新たな試み**（昨年度より開始した事業・業務・対応など） 1　AED 講習を地域の住民向けに行い、住民主体の地域を作るべく支援した。 2　地域の防犯上必要な事案が発生した場合、速やかに地域との情報共有が行えるよう警察署と連携し情報発信を行った。
Ⅶ	**残された課題・評価・反省・その他の特記事項** 1　AYAMU の推進を図るため、生活支援体制整備事業と連携し、地域資源の有効活用及び効率が図れるようにシステムを積極的に活用する予定だったが、システム自体が完成されていない為、今年度は行うことができなかった。引き続き準備をしていく予定。

令和元年度事業報告　部 門 名	報告者：氏　名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 生活支援体制整備事業	滝沢　泰彦

Ⅰ	**事業概況・実績報告**（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） 地域包括ケアシステムの構築に向けて、生活支援コーディネーターの配置や協議体の設置を通じ、多様な主体による多様な支援の提供体制を構築し、生活支援・介護予防の充実した地域づくりに取り組んだ。
Ⅱ	**業務目標の達成に関する報告**（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと） 1　地域活動の周知について、地域で行われているサークルなどの活動紹介を、地域の集まりやケアプラザ内で行われる集まりなどで紹介を行った。 2　担い手育成について、認知症サポーター講座やシニアボランティアポイント講習会などを開催し担い手の発掘と育成に努めた。 3　課題抽出について、生活支援体制整備事業フォーラムや民生委員懇談会などの集まり、また地域を巡回する事で、地域状況の把握に努めた。 4　日常生活支援総合事業の推進を図る為、体制整備に努めた。
Ⅲ	**事業数値目標の達成に関する報告**（達成率･達成数値） 1　生活支援体制整備事業の推進を図るため、協議体の開催を年間１回以上行うことを目標とし、支えあい連絡会を通じて３回行った。 2　シニアボランティアポイント講習を年２回行う事を目標としたが、１回のみ開催でき、参加者は７名であった。
Ⅳ	**業務の改善・見直し**（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1　地域支援を行えるよう、運営協議会・支えあい連絡会・民生委員懇談会など他職種連携の場を通じ情報共有・提案・相談等、意見交換を積極的に行った 2　地域の防災訓練や子ども食堂、ひかりが丘小コミュニティアハウスなどの活動に積極的に参加し、関係作りを行った。 3　情報の共有を図るため、地域資源情報を市が推奨するAYAMUに入力し地域資源の有効活用及び業務効率の向上が図れるよう改善を行っており、導入準備を進めた。
Ⅴ	**業務の強化・向上**（強化・向上したこと） 1　協議体（支えあい連絡会）を通じて、地域住民の助け合いの気持ちが継続出来る様、支えあいの仕組みを強化する取組みに努めた。 2　シニアボランティアポイント講習を受講した方を、放課後キッズクラブやひかりサポートなどのボランティア活動に繋ぐことができた。 3　旭区生活支援コーディネーター連絡会を通じて、多様な研修会に積極的に参加し知識向上に努めた。 4　西ひかりが丘団地におけるモデル事業を通じて、地域・区役所・近隣施設と連携し、多国籍な交流を行うことができた。 5　食支援事業について、地域交流、包括、地区社協、区役所と連携し必要な方に食支援ができた。 6　若い世代が共生社会に触れる事で将来の活動に繋げるために学生ボランティアと旭ジャズまつり等で協働した。

Ⅵ	**業務の新たな試み**（昨年度より開始した事業・業務・対応など） １　ケアプラザへ来所出来ない方、引きこもりがちな方等の出張支援の取組みについて、情報収集などを行った。 ２　ボランティアの活発な活動を助長する為、ケアプラザ内で行っている自主事業の参加者にボランティア活動について説明、数人の方がボランティア活動を始めるきっかけとなった。 ３　ボランティア活動者の不安の解消の為に必要な技術研修等を行い共にボランティア活動に参加する事で、活動の活性化を図った。 ４　認知症への理解を地域と共有するため、認知症サポーター養成講座を、働いている方も参加しやすいように土曜日にも行い、年２回：計４７名を集めることができた。
Ⅶ	**残された課題・評価・反省・その他の特記事項** １　西ひかりが丘団地における地域医療福祉拠点化について検討を行ってきたが、まだ発展途上である。 ２　地域のボランティアのニーズは多くあるが担い手不足である。よりボランティアの敷居を低くする必要性がある。

令和元年度事業報告　部 門 名	報告者：氏　名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 居宅介護支援事業部門	江口 直美

Ⅰ	**事業概況・実績報告**（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） 地域の方々が独居、老老介護など困難な状況であっても、住み慣れた自宅で暮らせるよう、安心と信頼を提供した。ご利用者の意思を尊重し、その有する能力に応じて、自立した日常生活を営むことが出来ることを目指し、支援を行った。
Ⅱ	**業務目標の達成に関する報告**（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと） １　互いに連携する ・毎月実施される民生委員懇談会に出席し、情報交換を行った。 ・サービス事業所、地域包括支援センター、行政、医療機関等からの相談には積極的に対応し連携を深めた。 ・ケアプラザ協力医とケースカンファレンス会議を実施し連携を深めた。 ・予防介護支援事業と協力し予防支援居宅サービス計画書作成した。 ・旭区からの認定調査の委託に対応し、地域の方々に資するよう務めた。 ２　互いの資質を向上させ信頼に繋がる体制を作った。 ・運営基準に基づいたサービスを実施する。 ・月に一回事業所内事例検討会を実施、一つの事例に対し多方面からの意見を得られる場を作った。 ・事業所内で連携を図り、包括・地域・通所からの情報、助言を受けられることで、緊急の際も早急に対応出来る体制を維持していった。 ・「サービス内容に関するご利用者アンケート調査」、により、業務の振り返りと改善を実施した。 ・新規開設の地域の福祉・保健サービス等の情報を収集しご利用者のニーズにあったサービスを提供出来る体制を作る。→新規事業所を見学はしたが利用には結びつかないケースがあった。
Ⅲ	**事業数値目標の達成に関する報告**（達成率･達成数値） １　居宅サービス計画書作成件数：毎月８５件×１２ヶ月＝年間１，０２０件に対し、 月９１件×１２か月＝年間１０９５件 ２　介護予防支援計画作成件数：毎月５５件×１２ヶ月＝年間６６０件に対し、 月５６件×１２か月＝年間６７２件 ３　認定調査受託件数：年間：１１４件（区外からの委託を含む） ４　事例検討会の実施：年間：５回
Ⅳ	**業務の改善・見直し**（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） １　ケアマネジャー本来の立ち位置を考慮しながら、利用者自身が出来ることは自分で、少し支援すれば出来ることは最小限の支援で、介護保険のサービスや自費サービスへの代替等民間会社に依頼出来ることは説明をした上で依頼するといったように、いくつかの選択肢を作り、利用者本人が決定できる体制を作った結果、業務の効率化を図ることができた。

Ⅴ	**業務の強化・向上**（強化・向上したこと） １　地域ケア会議への参加、包括、行政、医療機関、地域などと連携を図ることで困難なケースに関しても解決策を見出した。 ２　本人のみならず、家族の話も傾聴し、共に相談しながら今後についての相談を受けた。
Ⅵ	**業務の新たな試み**（昨年度より開始した事業・業務・対応など） １　ケアマネジャーが３人体制となったが、地域包括支援センターとの連携を強化し、従来の利用者の支援を継続した。 ２　障害のある家族、精神疾患の家族と同居の利用者が増えている。支援するにあたり 本人のみではなく家族を含めた支援が必要な場合が多い。障害関連事業所及び行政と連携を図り、家族全員が在宅で暮らして行ける体制構築を図った。
Ⅶ	**残された課題・評価・反省・その他の特記事項** １　ケアマネジャーの人数が５人から３人となったが、事業所全体で担当する利用者数は減らすことなく、ケアマネジャー１人あたりの担当利用者数が増えることになった。認定調査に関しても実施する人数が増えるが、利用者の言葉に耳を傾け、支援を継続していく。

令和元年度事業報告　部 門 名	報告者：氏　名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 通所介護	林田　広美

Ⅰ	**事業概況・実績報告**（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） １　デイサービスの支援が必要な利用者の意欲と生活機能及び生活意欲の維持・向上を目指して、サービスを提供した。 ２　地域福祉の担い手として責任感を持ち、多様な資源との『繋がり』を大切に『謙虚な気持で』ご利用者及びご家族への支援を実践した。 ３　利用者・ボランティア・職員が、それぞれに ≪目配り・気配り・心配り≫を行うことによりさらに温かくご利用者からも地域からも必要とされるデイサービスを目指した。
Ⅱ	**業務目標の達成に関する報告**（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと） 　笑顔で迎え、笑顔で送るデイサービス。「来てよかった」「また来たい」と笑顔で過ごしていただけるデイサービス。利用者や家族が安心できるデイサービス。常に安全とサービスの質の向上を意識して日々の業務に取り組んだ。 １　制度に即した運営：利用者それぞれの生活にあった、選べるサービス、また個々に必要なケアプランに添ったサービスを提供し誰もが安心して生活が送れるよう関係法令を遵守し、計画的な事業を行った。 ２　サービスの質の向上：送迎マニュアルの作成をしたが、内容について再度確認が必要なため次年度も継続して取り組む。 ３　情報発信：必要に応じ家族やケアマネジャーに文章や電話などで情報の提供を行った。身体的及び精神的に急を要すると判断した時は、速やかに家族のみならず医療等関係機関とも情報共有に努め、その際は必ず発信記録を残した。また、急変時の連絡体制も個別に対応方法を明文化した。 ４　地域社会及び関係各所との連携：地域包括支援センターや関係機関と連携し、特に問題ケースでは早めに対応しケース記録等記載を徹底した。 ５　個人情報の適切な管理：個人情報の有用性に配慮し、その権利と安全を保護した。
Ⅲ	**事業数値目標の達成に関する報告**（達成率･達成数値） １　１日平均２８人のご利用者数を確保。（通常規模事業所・定員４０名） ２　介護サービス情報の公表の調査項目を全て実施。
Ⅳ	**業務の改善・見直し**（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） １　規模変更に伴い利用者への料金説明及び事業所への連絡を遅滞なく行った。 ２　職員間の連絡事項共有の為に必要な手順表を見直したが、完成までには至らなかった。
Ⅴ	**業務の強化・向上**（強化・向上したこと） １　職員の適材適所への配置を考え組織の見直しを行った。 ２　新たに認知症実践者研修の受講を行った（計2名）。 ３　改善が必要なマニュアル内容については現在も修正を継続している。 ４　新規利用者について、ノーと言わずに積極的に受け入れた。
Ⅵ	**業務の新たな試み**（昨年度より開始した事業・業務・対応など） １　職員間の連絡・連携を取れるよう試みたが、明確な方法での改善が出来なかった。
Ⅶ	**残された課題・評価・反省・その他の特記事項** １　必要な情報共有の仕組みに課題があるため､全職種が協働してシステム構築を図りたい。

令和元年度事業報告　部 門 名	報告者：氏　名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 給食部門	村井　仁

Ⅰ	**事業概況・実績報告**（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） 健やかな生活を支える基本となる食事を提供するために、季節感が楽しめる新鮮な野菜を多く使い、普段自宅では食べられないような食事の提供を行った。また噛む力が衰えている方でも安心して食事ができるような工夫や栄養バランスの取れたメニューの提供を行うことができた。毎月の献立表で料理を紹介していくだけでなく、カロリーや旬の食材の説明などを取り入れた。
Ⅱ	**業務目標の達成に関する報告**（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと） 1　選択食やお楽しみメニューを取り入れ、ご利用者の満足度を高める献立づくりを行った。 2　相談員・介護職・看護職と連携をとり、安全で美味しい食事の提供に努めた。また個々の身体状況に合わせて食材及び形態等考慮して対応した。常に代替えの提供が出来るようなメニューの食材の準備をする事ができた。 3　間食のメニューの多様化及び量とカロリーへの配慮については不十分なため、より細かくマニュアルの作成をして来年度より徹底していく。 4　一食２０種類以上の食材を提供することができた。 5　職員全員の調理技術と介護食知識の向上に努めており、今後もより一層高めていく。 6　調理業務に必要な衛生管理及び検査等を徹底したことで、食中毒や感染症の発生を防止できた。
Ⅲ	**事業数値目標の達成に関する報告**（達成率･達成数値） 1　すべての利用者の誕生日月にリクエストメニューを実施した。満足度を上げるための配慮を引き続き実施していく。 2　季節毎の行事食の提供を毎月実施できた。 3　利用者の満足度を高めるために、メニューの多様化、栄養バランスの向上、旬の食材を使用した調理等に取り組んだ。今後も方法等について日々追及していく。
Ⅳ	**業務の改善・見直し**（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1　利用者と職員との関係性及び衛生管理の向上を図るために、専用ユニフォームの購入を検討したが導入には至らなかった。来年度は導入に向けて準備していく。 2　食数に対しての食材量の計算を行い無駄のない食事作りを徹底したが、まだ改善の余地がある。今後も細かく見直しを行い、表などにまとめ職員全員で共有していく。 3　職員一人一人の役割分担を決め、食材の管理・調理に責任を持つことができた。在庫管理についてはもう一度見直しを行う。 4　給食日誌の見直しを行ったことで、職員の意見を業務改善につなげることができた。

Ⅴ	**業務の強化・向上**（強化・向上したこと） 1　利用者の送迎時に直接お話しをすることで、料理の味付けやバランスについて意見が聞け、以降の調理に活かすことができた。 2　配膳時は食事量、塩分、糖分の調整、食欲のない方へのメニューの配慮など利用者一人ひとりへの心配りをすることができた。 3　毎月「給食会議」を行うことで、職員全員の意見を参考に行事食や季節料理などのメニューのバリエーションを増やすことができた。 4　誕生日のリクエストメニューを継続させたことにより、より細かいニーズに対応できた。 5　食札及び個別対応表を常に更新し、特にアレルギー食の誤配・誤食が起きないように徹底していく必要があることを職員全員で共有した。
Ⅵ	**業務の新たな試み**（昨年度より開始した事業・業務・対応など） 1　職員の負担軽減を図るために、設備の交換や新たな機器導入の検討を行った。導入には至っていないが必要性については今後も検討していく。 2　通所介護の行事等に積極的に参加したことで利用者とのコミュニケーションを図ることができた。
Ⅶ	**残された課題・評価・反省・その他の特記事項** 1　職員全員が利用者一人一人に対しての個別対応や食事提供方法などにいつでも対応ができるよう、こまめにミーティング等を行い意思疎通及び技術向上に努める必要がある。 2　利用者喫食状況報告書等に記載されている利用者の声や職員の意見を参考にし、今まで以上に食事提供の満足度を高めていく。

事 業 報 告 書

令和元（2019）年度

社会福祉法人　アドベンチスト福祉会

四季の森小学校放課後キッズクラブ

〒241-0001 神奈川県横浜市旭区上白根町 901 TEL (045) 951-7564

令和元年度事業報告　部 門 名	報告者：氏　名
四季の森小学校放課後キッズクラブ	北村　幸恵

Ⅰ **事業概況・実績報告**（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）

1　就労等により、放課後に保護者がいない小学生が安心して安全に過ごすことができる居場所を提供した。

2　地域との結びつきを重視し、利用者の通学する小学校をはじめとした地域の団体や関係機関との密接な連携をしたクラブ活動を目指した。

3　利用者が日々のクラブでの活動や他の児童との交流により、基本的な生活習慣を習得することや健やかに育成されることを図った。

4　異年齢児間の遊びや交流を通じて、児童の創造性･自主性･社会性を育むことを目指した。

5　法人理念「いのちを敬い、いのちを愛し、いのちに仕える」に基づき、キッズクラブを利用するすべての児童の安全と保護者の安心を確保した上で、活動内容の充実を図った。

Ⅱ **業務目標の達成に関する報告**（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）

1　従来行ってきたはまっ子ふれあいスクールでの活動を基盤として、まずは児童及び保護者が安心してキッズクラブを利用できるよう配慮した。

2　１に加えて学区内にある横浜市ひかりが丘地域ケアプラザの有するボランティアコーディネート機能を活用し、キッズクラブの活動内容の充実を図った。

3　１・２を行うことによりキッズクラブの魅力を高めることで、利用児童数の増加につなげることに努めた。

Ⅲ **事業数値目標の達成に関する報告**（達成率･達成数値）

1　昼間平日参加児童数（利用区分１）　　１日平均　目標：４０名　実績：２２．６名

2　夜間平日参加児童数（利用区分２）　　１日平均　目標：１０名　実績：２．８名

3　年間ボランティア活動人数（延べ人数）　年間合計　目標１００名　実績：４９名

Ⅳ **業務の改善・見直し**（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）

事業初年度のため該当なし

Ⅴ **業務の強化・向上**（強化・向上したこと）

事業初年度のため該当なし

Ⅵ **業務の新たな試み**（昨年度より開始した事業・業務・対応など）

事業初年度のため該当なし

Ⅶ **残された課題・評価・反省・その他の特記事項**

1　高学年も楽しめるようなイベントやプログラムを検討し、参加児童数の増加につなげる。

2　新１年生も安心して過ごせるよう、改めて設備点検を行う。

3　体験型プログラム（例：植物等を育てて収穫、児童が楽しめる新しいスポーツや遊びの導入等）の実施を検討する。

令和元年度　活動内容

クラブ名：　四季の森小学校放課後キッズクラブ

月	実 施 内 容（プログラム）
4	お花見遠足（里山ガーデン）、ぬり絵コンテスト、ラキューこま大会、DVD上映会 日替り工作、自由遊び
5	新入生歓迎会、食育（こいのぼりゼリー）、キラキラカード製作、母の日工作 日替り工作、自由遊び
6	職・食育（パティシエ）、DVD上映会、父の日工作、ペーパークラフト 日替り工作、自由遊び
7	すいか割り、プール（校内）、DVD上映会、七夕短冊飾り製作、サッカー教室、 日替り工作、自由遊び
8	縁日、プール（校内）、夏休み工作、交通安全教室、納涼おやつ会 日替り工作、自由遊び
9	食育（お月見団子）、遠足（里山ガーデン）、DVD上映会、ラキューこま大会、 日替り工作、自由遊び
10	ハロウィン工作、DVD上映会、ミニ運動会、キラキラカード製作 日替り工作、自由遊び
11	じゃんけん大会、DVD上映会、ビーズ工作、ラミネート工作 日替り工作、自由遊び
12	クリスマス会、クリスマス工作、クリスマスカード作り、食育（豚汁） 日替り工作、自由遊び
1	お正月カード作り、しおり作り、DVD上映会、ビーズ工作、 日替り工作、自由遊び
2	食育（バレンタイン）、プラ板アクセサリー、アイロンビーズ工作、 日替り工作、自由遊び
3	日替り工作、自由遊び
評議会開催日（半期に1回以上開催）	①6月11日　②2月4日
保護者会開催日（半期に1回以上開催）	①7月27日 ②3月28日（新型コロナウイルス感染症予防のため 開催中止：参加予定者に資料配布を行う）

令和元年度　研修報告

クラブ名：　四季の森小学校放課後キッズクラブ

月	研修内容、参加者
4	●個人情報保護（北村・入澤・佐藤・前田・荒川・佐野・大友・久保・髙橋：4/23） ●「障害理解研修用DVD」を用いた研修 （北村・入澤・佐藤・前田・荒川・佐野・大友・久保・髙橋：4月中）
5	
6	●アレルギーへの対応（入澤：6/20）
7	●児童発達理論（北村：7/3～4） ●個人情報保護（一ノ瀬・守屋：7/27） ●「障害理解研修用DVD」を用いた研修（一ノ瀬・守屋：7月中）
8	
9	●衛生管理（入澤：9/13） ●感染症予防講習会（北村：9/20） ●児童の健康（守屋：9/25） ●こどもの人権（北村：9/26）
10	●児童をとりまく環境に着目する個別援助技術（佐野：10/3、30） ●児童虐待の防止と対応（髙橋：10/23） ●障害理解【応用編】（北村：10/28）
11	●障害児の受け入れと対応（北村：11/13、18） ●障害理解【応用編】（北村：11/20） ●食品衛生責任者講習会（髙橋：11/14） ●学校・地域との関わり（北村：11/25）
12	●おやつ【栄養管理・衛生管理】（入澤：12/4） ●放課後児童支援員認定資格研修（北村：12/10、13、17、20）
1	●放課後児童支援員認定資格研修（入澤：1/27、28）
2	●放課後児童支援員認定資格研修（入澤：2/3、4　髙橋：2/18、21、25、28）
3	●食品衛生責任者養成講習会（入澤：3/25）

事業報告書

令和元（2019）年度

社会福祉法人　アドベンチスト福祉会

シャローム三育保育園

シャローム三育保育園 令和元年度事業報告

保育指針：「キリスト教の愛を基に
『知育』（考える力）
『徳育』（おもいやる心）
『体育』（けんこうな体）の調和ある発達を目的とした保育をおこないます」

保育目標：「気持ちを素直に表現し、意欲的に生活する子ども」
「思いやりの心を育て、感謝の気持ちを持てる子ども」
「健康な心と体を持ち、最後まで頑張る子ども」

令和元年度は保育士不足により、0 歳児枠を 3 名減員してスタートしました。7 月までに保育士２名を採用することができ、9 月に幼児２名、11 月から０歳児の受け入れを再開し、令和２年２月には 84 名となり定員を満たすことができました。10 月末から感染性胃腸炎が流行し、インフルエンザ、新型コロナと後半は感染症対策に追われました。

施設整備中期計画４年目は床の張り替え及びパソコンの更新を行うことができました。

地域交流として高齢者サロンへとの交流を計画していましたが感染症の流行により中止になってしまいました。年度を通して天候や感染症などの影響を大きく受け、行事や活動などの自粛や中止を余儀なくされる場面がありました。災害だけではなく様々な状況下を想定し、事業継続のための備えが必要であると痛感した一年でした。

園長　村上　渉

目　次

事業報告書 ……………………………………………… 2

【１】現況報告 ……………………………………………… 4

【２】給　　食 ……………………………………………… 5

【３】医　　務 ……………………………………………… 5

【４】防災管理 ……………………………………………… 6

【５】職員研修 ……………………………………………… 7

令和元年度事業報告　部 門 名	事業報告者：氏名
保育園　保育	小幡　悦子

Ⅰ **事業概況・実績報告**（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）

1　平均入所児童数　名/81 名

2　保育園整備中期計画の実施。（床材と PC の更新）

Ⅱ **業務目標の達成に関する報告**（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）

1　衛生管理に関して計画的に職員教育などを行ったが、感染症の流行を抑えるまでには至らなかった。今後は、よりご家族と協力して感染症予防に努めていきたい。

Ⅲ **事業数値目標の達成に関する報告**（達成率･達成数値）

1　園児数の確保：入所児童枠 84 名に対し平均　81 名。達成率　96%。

2　一時保育事業：年間目標延べ 450 名に対し　414 名。達成率　92%。

Ⅳ **業務の改善・見直し**（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）

1　年間の園内研修の目的を『スキルアップ』とした。

・担当年齢児ごとのグループディスカッションを継続的に行ったことで　自分たちが関わっている年齢の知識を高め　保育の質の向上を図ることができた。

・外部研修を短時間ではあるが　全職員へ発表することで　現場で活かそうとする動きがみられた。

2　･マニュアルをもとに　除去食･嘔吐処理･防災等を計画的に行うことで全職員への周知ができた。

・嘔吐処理方法ビデオを作成し　全職員への周知・徹底を行うことができた。

Ⅴ **業務の強化・向上**（強化・向上したこと）

1　効率的な働きから長時間労働の削減に向け努力したが　職員の配置の変更等で非効率的な動きが多く　勤務時間内での充実した働きにはならなかった。

2　感染症委員会から健康管理に関する情報・指示を出すことで　衛生知識向上に努めることができた。

3　職員それぞれが保護者を支援する体制を意識することで　園内での連携から関係機関との連携・協働へとつなげることができた。

4　専門職・担当クラス等を考慮した園内研修・自己チェックシートの活用で専門性の向上を図ることができた。

Ⅵ **業務の新たな試み**（昨年度より開始した事業・業務・対応など）

1　園庭遊具の整備を機会に　職員間で子どもの主体性ある活動について話し、意識して保育にあたることができた。

Ⅶ **残された課題・評価・反省・その他の特記事項**

1　安定した職員配置

2　全ての職員が必要な知識や技能を身に付け　それを磨いていく必要があることを意識する

令和元年度事業報告　部 門 名	事業報告者：氏名
保育園　給食	勝谷　広志

Ⅰ	**事業概況・実績報告** 職員配置が大きく変り未経験の職員もいたが積極的に研修の参加などを行い知識の向上などに努めました。
Ⅱ	**業務目標の達成に関する報告**（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと） ・給食会議などで情報交換を行い、年度の後期 10 月から 3 月は乳児残食 0.5ｋｇ以内が 91.3%になった。
Ⅲ	**事業数値目標の達成に関する報告**（達成率･達成数値） **・昼食時残食量　乳児 0.5ｋｇ以内　62.7%（後期 91.3%）　幼児 0.3ｋｇ以内　91.0%** ・栄養設置基準の 5%以内の献立作成（年 12 回の内の目標数値外の回数） エネルギー　1 回　タンパク質　6 回　脂質　3 回　カルシウム 1 回　食塩　2 回
Ⅳ	**業務の改善・見直し**（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） ・タンパク質が基準値設定範囲内を上下することが多いので年間を通してあまりブレがないようにしていく。 ・給食会議での情報交換。
Ⅴ	**業務の強化・向上**（強化・向上したこと） ・内外の研での知識の向上。 ・残食量の減少。 ・職員間の連携の強化。 ・栄養設置基準内の献立の作成。
Ⅵ	**業務の新たな試み**（昨年度より開始した事業・業務・対応など） ・乳児クラスでの食育活動は保護者からの反応もよく、また子どもたちも楽しく参加でいた。
Ⅶ	**残された課題・評価・反省・その他の特記事項** ・食育活動でいかに子どもたちにわかりやすく伝えることができるか、興味をひく事ができるか。 ・残食が減るような献立、子どもたちが食べやすい給食への取り組み。

【1】現　況　報　告

① 入所児童　　（令和 2 年 3 月 31 日付け）

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
定　　員	9/6	12/12	15/13	48/39			84/70
現　　員	9	12	15	15	16	17	84

② 一時保育事業延利用児童数

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
延利用児童数	35	24	33	35	52	26	30	37	30	30	32	50	414

③ 行事の状況

実施日	行事名	実施日	行事名
4 月 1 日	入園式	11 月 1 日	お弁当持ち散歩
5 月 30 日	内科健診	11 月 15 日	さつまいも堀り
5 月 31 日	お弁当持ち散歩	11 月 5～27 日	個人面談
6 月 7 日	保育参観・懇談会	11 月 28 日	歯科健診
6 月 18 日	じゃが芋掘り	12 月 14 日	クリスマス会
6 月 27 日	歯科健診	1 月 7 日	もちつき
7 月 10 日	さかなのつかみ取り	2 月 3 日	節分
7 月 19 日	夕涼み会	2 月 28 日	保育参観・懇談会
7 月 24 日	プール開き	3 月 7 日	卒園遠足
8 月 26 日	シャローム横浜おやつピザ	3 月 14 日	入園説明会
10 月 13 日	運動会	3 月 16 日	お別れ会
10 月 31 日	内科健診	3 月 18 日	卒園式
		3 月 31 日	進級式

《地域交流と支援》

- 地域支援：「えいごで遊ぼう」「園庭解放」毎月第 3 木曜日
- 地域交流：せやっこ祭り 11 月 9 日
- 他世代交流：シャローム横浜デイサービス 8 月 26 日、11 月 7 日中止
  ひかりが丘地域ケアプラザ 9 月 11 日
  グループホームミルトスの木上白根 9 月 20 日
- 幼保小交流：学校探検 2 月 10 日、球根植え 10 月 16 日
- 他保育園との交流会：ランランデー5 月 15 日、あづま野幼稚園園庭交流 7 月 3 日
  どろんこ遊び 7 月 29 日、ドッジボール大会 2 月 27 日
- 療育センター巡回訪問：年 2 回
- 読み聞かせボランティア受け入れ：年 3 回
- 防災ボランティア活動支援：1 月 25 日
- せやまる・ふれあい館合同避難訓練：3 月 5 日
- 合同育児講座：1 月 20 日
- 職業体験：中学生　4 名、高等支援学校生 1 名
- 実習生：看護大学 12 名、専門学校生 6 名

【２】給　食

①　食育計画　　【栄養講話】　対象：３～５歳児

実施日	内　容	備　考（媒体）
4 月 24 日	三角食べについて	
5 月 8 日	食事のマナー「正しい姿勢で食べよう」	クイズ形式　ポスター
5 月 22 日	手洗いの大切さ	正しい手洗い方法を歌いながら学ぶ
6 月 5 日	「歯を大切にしよう」 虫歯ができる理由・歯を磨く大切さ	
6 月 12 日	何からできてるかな（加工食品について）	竹輪→魚　チーズ→牛乳 ハム→肉　など
6 月 26 日	噛むことの大切さ	
7 月 10 日	夏野菜について	クイズ形式
9 月 4 日	秋の食べ物について	クイズ形式
9 月 18 日	箸の持ち方について	ポスター
10 月 2 日	三角食べについて	
11 月 6 日	さつま芋について	収穫したさつま芋について
11 月 20 日	冬の味覚について	クイズ形式
12 月 4 日	食事のマナー、正しい姿勢で食べよう	
12 月 18 日	冬至について	クイズ形式　ポスター
1 月 4 日	七草粥について	七草の展示
1 月 29 日	節分について	
2 月 12 日	手洗いの大切さ	正しい手洗い方法を歌いながら学ぶ
2 月 26 日	春の食べ物について	
3 月 12 日	いただきます・ごちそうさまについて	

【３】医　務

①　健康診断

実施日	対象人数	実施人数	診断項目	異常の有無
（1 回目）5 月 31 日	779 人	67 人	内科	無
（２回目）10 月 31 日	82 人	79 人	内科	無
実施人数と対象人数が異なるがその理由を確認し（病的、私的欠席）、経過を追った。				

②　歯科健診

実施日	対象人数	実施人数
6 月 27 日	79 人	76 人
11 月 28 日	82 人	73 人

【4】防 災 管 理

① 消防設備点検

消防設備点検(実施・届出)	1回目(6月7日)点検実施
	2回目 (12月4日)点検実施

② 防災対策備蓄

備蓄物	備蓄数量	備蓄物	備蓄数量	備蓄物	備蓄数量
ガーゼ	20束	エマージェンシーシート	2枚	おむつビック	54枚×9
グローブ	1000枚	手作り包帯	約50本	おむつ超ビック兼用	14枚×1
消毒液・オキシドール	9本・500ml×2	おむつＳ	84枚×1	おしりナップ	10個×3
サージカルテープ	12巻×2	おむつM	64枚×2	鍋	1個
バンドエイド	9箱	おむつM	58枚×3	ガスコンロ	1台
コットン	3パック	おむつＬ	64枚×6	カセットガス	3本
ウエットティッシュ	2箱	水（2ℓ）	144本	ハロゲン灯光器	1台
哺乳瓶	9本	白がゆ・白飯	50・150	手動充電器	2台
哺乳瓶乳首	4個	ミルク	10缶	着火マン	2個
使い捨て手袋	100枚×3	クラッカー（70食）	4缶	懐中電灯・電池	2セット
ビニール袋（大小）	550枚	携帯トイレ	30回分	ラジオ	1台
紙ナプキン	150枚	ペーパータオル	25袋	タオル	1箱
ジャグ	2台	トイレットペーパー	36巻	発電機	1台
ラップ	1本	ティッシュ	12箱	ガソリン	30L
コップ	350個	着替え上下120/140	30枚	皮手袋・軍手	12組・22組
箸・スプーン	60膳・30個	マスク（大小）	1000枚	工具類	一式
紙皿（大中小）	163枚	簡易トイレ	2台	スケッチブック	3冊
ハンドミスト	4L×2 750ml×5	けんちん汁（3kg）	6缶	ガムテープ	2巻
クリップ大小	8個	EMG・ブランケット	57枚	スズランテープ	2巻
おんぶ紐	8本	靴	17足	はさみ	2本
トランシーバー	2台				

③ 避難及び消火訓練　　　　（実施内容に○印）

実施内容	想定			訓練	
実施月日	地震	火災	その他	避難	消火訓練
2019.4.17	○			○	○
2019.5.13		○		○	○
2019.6.19			○	○	○
2019.6.26			○	○	
2019.7.17		○		○	○
2019.8.14	○			○	○
2019.9.18			○	○	○
2019.10.17		○		○	○

2019.11.20			○	○	○
2019.12.11	○	○		○	○
2019.12			○		
2020.1.22		○		○	○
2020.2.19	○				○
2020.3.5 せやまるふれあい館 合同避難訓練		○		○	○

【5】職　員　研　修

①　園外研修

		実施記録（上段：研修名･中段：主催・下段：研修日）	
	個人の年間のねらい	①	②
		③	④
園長	人材の確保と育成 施設環境の整備 重大事故発生0	園長・施設長研修	
		白峰学園保育センター	
		7/24・8/8・9/30	
小幡 悦子	保育者として　成長していく環境をつくる	保育者のための 児童虐待予防研修	課長層むけ マネジメント研修
		旭区こども家庭支援課	経営者会
		6/3・7/8	6/5・10/9
		保育実習指導者研修	
		横浜市こども青少年局	
		12/19	
大原 仁子	仕事の内容と手順を見直し 不要な作業がないか見極める 令和元年度の制度への対応 園長先生との情報共有	中間層向け マネジメント研修	保育園の予算と 決算セミナー
		経営者会	グループシティ株式会社 サーヴ事業部
		7/10・1/15	1/１４
岡田 ちとせ	感染症への啓発指導(園児　保護者　職員)よりクラスの中へ入り指導の内容を工夫して遊びを通して伝えていく	障害児保育講座	
		白峰学園保育センター	
		7/2・8/20・9/10・ 10/29・11/19	
下村 英里	個々にきめ細やかに対応し各々が安心できる環境、関わりが出来るようにする 担任間　職員間での情報共有や共通認識を持てるよう意識し　良いチームワークが持てるように努める	0歳児保育研修	1歳児保育研修
		白峰学園保育センター	白峰学園保育センター
		7/22・9/2	6/26・8/7

鈴木 香	一人ひとりの子どもたちが健康で楽しく　のびのびと保育園生活を送れるよう　自分のスキルも更にのばしていく 保護者にも安心してもらえるように努めていく	子どもの感染症について ～適切な対応を行うために～ ウイリング横浜 10/29	
金子 武人	職員がしっかりとコミュニケーションを図り　連携をとる 子どもの気持ちを十分に受け止め　スキンシップをとり安心できる環境づくりを行う	保育士等キャリアアップ研修　保護者支援・子育て支援研修 横浜市私立保育園園長会 11/8・12/5・13	
佐藤 千穂	子どもたちが何をしたいと思って何をしようとしているのかを　くみ取るよう努め　援助・見守りをしていく	受講無 （感染症拡大防止のため申込研修中止）	
木原 有紀	個人差に配慮し　子ども主体を意識して保育士同士の協調性を持ち　安全に楽しく園生活が過ごせるように努める	保護者とこども・ 保護者等との関わり こども青少年局 保育・教育人材課 11/25	
青木 彩花	子ども一人ひとりの成長に寄り添い　主体性を大切にした保育の展開 自身の向上、他保育士への指導しっかりと副主任業務をこなす	特別セミナー （保育素材・手遊びうた・伴奏法・運動遊び） 白峰学園保育センター 8/29. 8/23. 8/21. 8/1	
松井 芽惟	担任間の報連相を意識し　連携をしっかりと取り保育を行う 子どもたちの自主性を重んじた保育を行う	乳幼児救急法研修 子どもの事故と応急手当 白峰学園保育センター 6/12～13	
瀬谷 留美	子どもたちの自主性を大切にそれぞれの発達にあった保育をする 食育を大切にし　積極的に保育に取り入れる	子どもの心を そっとつつむためにⅡ 阿久和保育園 9/4	
脇本 瑛梨香	子どもの発言に耳をかたむけ遊びや製作につなげられるようにする	3歳児保育研修 白峰学園保育センター 6/17・7/16	4・5歳児保育研修 白峰学園保育センター 8/30・10/17
吉田 成美	サポートに徹する 副主任として幼児をまとめ、意見を取り入れる	保育士等キャリアアップ研修　マネージメント 横浜市私立保育園園長会 8/7・9・20	

知久 ゆり	幼児組の仕事や保育の仕方について学ぶ 保護者との信頼関係を持ち連携を行う	保育士等キャリアアップ研修　保育実践 横浜市私立保育園園長会 6/15・7/1・7/17	
嶋村 千恵子	子どもたちの興味に耳を傾け保育を進める 畑や自然に触れ興味が持てるようにする	保育士等キャリアアップ研修　食育・アレルギー 横浜市子ども青少年局 8/21～22	
倉原 望	5 歳児の発達を理解し　個々に合わせた保育をする 担任同士で日々の保育を向上させ楽しく保育する	カウンセリングを活かした保護者対応講座Ⅰ 白峰学園保育センター 5/28・6/25・7/23・8/27・9/17	療育参観日 横浜市西部地域療育センター 7/25
池部 桃子	子どもと遊びや生活　クラス活動などを通して　もっと関わることで　子ども発達援助に関わっていく	初級　幼児教育研修 横浜市こども青少年局 7/10	療育参観日 横浜市西部地域療育センター 8/1
山岸 大嗣	職員とコミュニケーションを取れるようにする	応急救命研修 瀬谷消防署 10/16	
平井 菜緒	各クラスの動きを把握し　スムーズに保育できるようサポートする	保育の中にやさしさを～かみつきを通して保育を考える～ 横浜市私立保育園園長会 9/27	
横森 房枝	礼儀正しく　向上心を忘れず職務にあたる	地域療育センターオープンデイ 横浜市西部地域療育センター 10/30	
松本 美奈子	子どもたちの情報を共有し各クラスで保育が円滑に進むようにする 保育中の声の大きさ　言葉づかいに気を付ける	ムーブメント公開保育研修 瀬谷区こども家庭支援課 10/31	
宮本 博子	今年度は　フリーという立場から子どもたちの健康及び安全に気を付けながら　子どもたちが楽しく過ごせるように配慮しながら保育していきたいと思う 担任の先生の手助けになるようにしていきたい	seya 防災ネットワーク秋の防災研修会 横浜市瀬谷消防 10/23	

佐藤 百合子	保育士として任された仕事 保育を責任を持って行う 子どもの成長に合った助言 保育を行う	ぶらんちスペース オープンデイ	
		横浜市西部地域療育センター	
		11/13	
宮原 恵子	保護者を待つ気持ちを受けて 止め不安にならないような言 葉がけや過ごし方を考える	防災に関する研修/子ども を守るのは日ごろから	
		横浜市私立保育園園長会	
		9/18	
加藤 京子	全体を見回し　必要な場面で 適切な動きをとる	瀬谷区保育・教育使節年 齢別0・3歳児研究会	
		瀬谷区福祉保健センター こども家庭支援課	
		9/17・10/30・1/15	
渡邉 彩	資格取得 子ども主体の保育を行う 分からないことが分からない ままにしない	3区合同　保育施設　障害 児保育研修　基礎	
		横浜市旭区福祉保健センター	
		9/9	
米倉 愛友花	子ども一人ひとりの気持ちに 寄り添い　気持ちを受け止め られるようにする	ぶらんちスペース オープンデイ	
		西部地域療育センター	
		8/27	
富山 彩加	子どもに対して適切な言葉がけ 関わり 環境設定をしていく 園に預ける保護者の気持ちを汲 み取り 保護者支援していく 一緒に働く先生たちが　運営 しやすいようにフリーとして サポートしていく	乳幼児保健研修	
		横浜市こども青少年局	
		1/23	
勝谷 広志	食材　コスト管理 乳児への食育の関わり バイキングの充実 くま組でのバイキングの取り 組み	集団給食における 衛生管理について	調理員、栄養士、保育士 食育研修
		横浜市こども青少年局	瀬谷区福祉保健センター
		5/29	9/20・1/17・他1日
		給食施設栄養管理研修会	
		瀬谷区福祉保健センター	
		2/18	
熊倉 和可子	保育園の流れを把握し　安心・ 安全な給食づくり	食育・アレルギー対応	中堅保育士研修
		白峰学園保育センター	白峰学園保育センター
		1/29・2/25	6/11・9/6
		スチームコンベクション オーブンを使った料理	給食施設栄養管理研修
		横浜市社会福祉協議会	横浜市瀬谷区福祉保健課
		1/9	2/3

松原 亜里沙	手際よく調理　配膳　洗浄をする	給食研究会	
		横浜市社会福祉協議会	
		8/21	

② 園内研修

A）園内研修　　年間のねらい『スキルアップ』

実施年月日	内容（担当職員）
4月26日	① アイスブレイク（副主任） ② 研究発表Ⅰ（主任）
6月28日	① 「除去食講習」マニュアル確認（栄養士） ② グループディスカッション「保育園の役割に理解を深め　保育園で働く事への責任感を高めるⅠ」（副主任）
7月26日	① 園外研修報告Ⅰ　（主任） ② 事故報告・ひやりはっとフィードバック：前期（副主任） ③ 防災Ⅰ「朝・夕・土の災害時避難方法の確認・把握・想定実践」（防災係）
8月30日	① 研究発表Ⅱ　（主任） ② グループディスカッション「保育園の役割に理解を深め　保育園で働く事への責任感を高めるⅡ」（副主任）
9月27日	自己評価：前期　※自己評価チェックシートを記入後グループごとの回覧（主任）
10月13日	防災Ⅱ「①地震発生時　避難シミュレーション　②発電機使用訓練」（防災係）
10月25日	グループディスカッション「保育園の役割に理解を深め　保育園で働く事への責任感を高めるⅢ」（副主任）
11月29日	① 外部研修報告Ⅱ（主任） ② 『対話』　「クリスマスとお正月」どちらが好き？　二人一組で話す。（主任）
12月14日	グループディスカッション『類人猿分類』（主任）
12月・1月	嘔吐処理対応（看護師）
1月31日	① 研究発表Ⅲ（主任） ② 人権擁護（園長）
2月28日	① 自己評価：後期（主任） ② 事故報告・ひやりはっとフィードバック：後期（副主任）
3月15日	① 理念・保育方針・個人情報保護・苦情対応・事故対応・他マニュアル（園長・担当職員） ② 防災Ⅲ（防災係）　③外部研修発表Ⅲ（副主任）
年間を通して	「〇〇先生の良いところ」（副主任）

B）外部講師研修

実施年月日	テ　ー　マ
6月1日	『発熱のイロハ』
	なごみクリニック　武井先生
3月15日	『ハラスメントについて』
	社会保険労務士事務所　こどものそら舎　代表：関山　浩司氏

事 業 報 告 書

令和元（2019）年度

社会福祉法人　アドベンチスト福祉会

放課後等デイサービス ベーテルの夢

2019年度　ベーテルの夢事業報告

理事長　村本英邦

アドベンチスト福祉会が久しく着手しなかった新規事業については、多くの方々からの相談や要望を受ける中で事業を興すのに相応しい場所や時期を模索してきた。さらに、福祉事業運営を近年の社会情勢と併せて見るとき、社会のニーズに向けた取り組みの継続と健全な事業経営の両立が、経済面でいかに難しいことかを実感している。それでも、法人経営者会においては法人理念に込められた「失われたものを探し出して仕える」という聖書の思想を実践する使命感を持ちながら、およそ5年に渡って熱心に祈り続けてきた。

その結果、2019年5月より沖縄県において「発育に何らかの違和感を抱えるこども達」のための支援事業「放課後等デイサービス」を開設するに至った。当該サービスの取り組みに関する詳細は別紙「2019年度事業報告書」に譲るが、法人の理念を信じて進むとき、幾度となく聖書の神のご計画が「神のなされることは皆その時にかなって美しい（伝道の書3章11節）」ものであるかを体験した。

そのような中でベーテルの夢が最も大切にしてきたことは、始業時に全員で行う「祈り」である。ベーテルの夢が「そこに在る」ことの意味を一日の始業時（朝礼）に祈りを通して確認するスタイルは、これまでシャローム横浜の医務室で伝統的に行われてきた“朝の祈りの時間”をモデルにしている。職員は、その日に出会う方々の様々な現実に向き合うことで、生命としての「命」の重みを知ると同時に、個人の人生を指す「いのち」の圧倒的な深みと意味の前に、自らの力の限界をもまた強く知らされる。この現実を前にして、キリスト教福祉に従事するスタッフには、「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである（マタイによる福音書25章40節）」との聖書の思想が響く。しかし、その思想こそがキリスト教福祉において大切とされる「謙虚」な姿勢を生み出すのであって、これは「人は皆、神の御前においては平等である」という考えにも繋がり、特に発育に何らかの違和感を覚える小さき者への差別や偏見を避けることにもなる。始業時の祈りは、そのような意味でスタッフひとりひとりの心に語りかける静かな声であったと確信している。

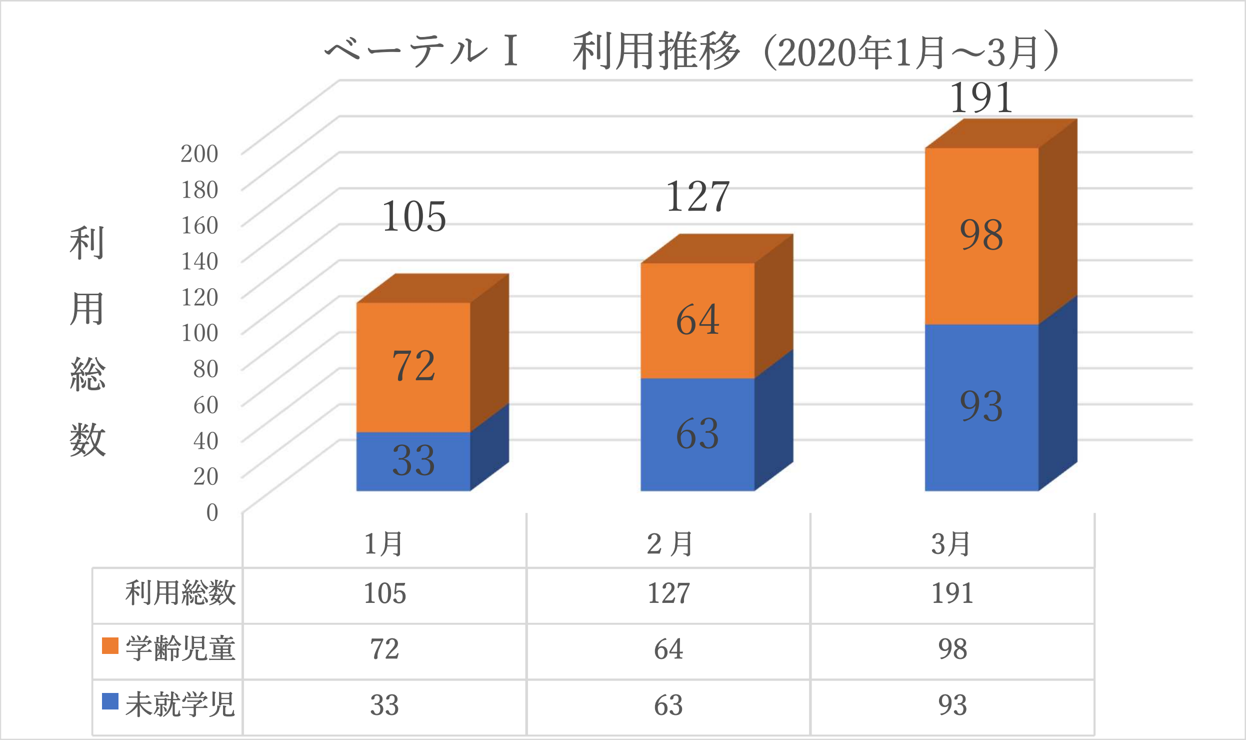
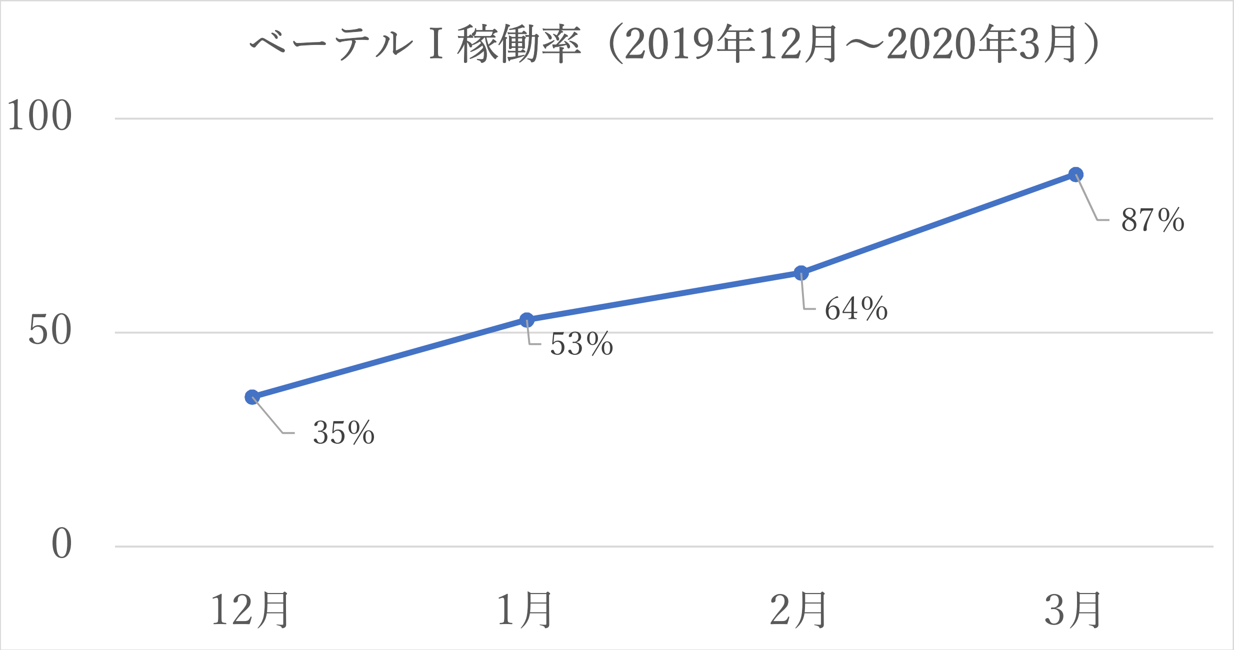
2019年度、新規事業としてスタートしたベーテルの夢の事業が、今後も地域のニーズに対して十分な役割を果たせるように祈りながら前進していきたい。

令和元年度事業報告　部 門 名	報告者：氏　名
ベーテルの夢	福地　泉

Ⅰ	**事業概況・実績報告**（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）
	1　5月放課後等デイサービス事業の開始。6月児童受け入れ開始。夏休み（一日療育）終了まで、療育現場の整備や療育実践の定着と充実化を重点的に行った。
	2　9月、地域リサーチから児童発達支援のニーズを拾い、新規事業の申請準備と療育を並行して行い、12月に児童発達支援と保育所等訪問事業を開設した。
	3　12月よりリクルート活動を強化し、15名の児童契約に至る。翌2月に20名の児童登録を達成した。通所児童枠10人/日の稼働率向上に努めた。
Ⅱ	**業務目標の達成に関する報告**（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）
	1　業務内容の充実と質の向上のために、地域交流勉強会・研修などに積極的参加した。
	2　児童の全人的受容体験を目指し、朝の朝礼・ミーテイングを通してキリスト教福祉の実践についてスタッフ間の共有を図った。
Ⅲ	**事業数値目標の達成に関する報告**（達成率･達成数値）
	1　2019年5月～12月までの稼働率：平均30%
	2　2020年1月53%　2月67%　3月87%
	※　2月末より新型コロナによる事業所利用自粛を促したため稼働率が減少傾向に転じた。
Ⅳ	**業務の改善・見直し**（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）
	1　療育内容の運用方法や質の向上のために、地域勉強会（月1回）への参加、自治体への療育内容の発信、放課後連盟の研修等に積極的に参加した。
	2　教育委員会や社協との連携とリサーチ、相談事業所への営業や地域連携を行うことによってネットワークの拡大を図り、その結果、多数の児童紹介を得ることができた。
Ⅴ	**業務の強化・向上**（強化・向上したこと）
	1　<u>職員の資質向上</u>：児童発達支援管理責任者研修（1人）・相談支援専門員研修（1人）wisc知能検査実施研修（2人）・1回/月の地域勉強会参加・その他研修の積極的参加
	2　<u>リクルート活動</u>：12月より営業活動を強化した。その際、アドベンチス福祉会の理念と福祉思想を伝えることができた。その結果、信頼関係の強化と児童紹介に至った。
	3　<u>SNS発信</u>：インスタグラム・ホームページを通して活動内容を発信した。
	4　児童館との交流を通して療育の場をひろげ、児童の経験値を高めた。
	5　こどもボランティア導入：健常児と発達障害児の交流を通して両者の体験を深めた。
Ⅵ	**業務の新たな試み**（昨年度より開始した事業・業務・対応など）
	1　2019年12月より児童発達支援と保育所等訪問事業を開設した。
	2　2020年4月よりベーテルⅡ（放課後等デイ・児童発達支援）の開所に向けて準備した。
	3　送迎ボランティアと見守りボランティア・学生ボランティアを導入した。
	4　保育所等訪問による学校等へのつながりを強化した。
	5　スクールソーシャルワーカー業務の提携（三育小学校との機関連携）を始めた。
	6　中・高・大学の学生ボランティアを導入し、相互理解と育成を目指していく。
Ⅶ	**残された課題・評価・反省・その他の特記事項**
	1　勤務時間：送迎時間を工夫して終業時間を厳守することで、超過勤務を少なくする。
	2　通所児童枠10人の目標に対し、11人を予定数として利用コントロールを行う。
	3　ベーテルの夢とⅡに複数登録可能な児童と契約を行うことで、安定的な稼働率目指す。

2019 年度　登録児童数

月	5 月	6 月　1	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
人数	0 人	1 人	2 人	3 人	3 人	4 人	5 人	7 人

2020 年　1 月～3 月

月	1 月	2 月	3 月
人数	11 人	20 人	20 人